

14.2<sub>1</sub>

176

製絲試驗成績

第一号

岐阜縣製絲同業組合

国立国会図書館



始



8-484

1421  
176

製絲試驗成績 (第一號)

岐阜縣製絲同業組合

14<sub>24</sub>-176

緒言

本書ハ當組合本縣ノ委托ヲ受ケ製絲講習所ニ於テ  
行ヒタル自大正四年度至同七年度製絲經濟試驗成  
績ヲ輯録シタルモノニシテ斯業上ノ參考トナルベ  
キモノト認メ印刷ヲ以テ謄寫ニ代ヘ廣ク之レヲ組  
合員ニ頒ツ

大正八年四月

岐阜縣製絲同業組合

大正  
8.5.19  
内交

一、絲經濟試驗成績目次

大正四年度試驗

- 一、煮繭試驗
- 二、製絲職工能率増進ニ關スル成績
  - A、素質ト能率トノ關係
  - B、能率誘發試驗
  - C、能率絞出試驗
- 三、蠶繭膠質變化試驗
- 四、繅掛(ケンネル)裝置試驗

大正五年度試驗

- 一、能率試驗
  - (イ) 素質試驗
  - (ロ) 經濟上最モ有効ナル労働時間ノ程度

(ハ) 精力誘發及絞出ニ關スル試験

A、精力誘發試験

B、精力絞出試験

二、蠶繭膠質變化試験

三、蛹汁ト解舒トノ關係試験

四、伏煮試験

五、浸湯浸水煮繭試驗

大正六年度試験

一、能率試験

二、一日中毎時間ニ於ケル繰絲作業成績試験

三、蠶繭解舒及絲量算定試験

四、煮繭前含濕處理試験

大正七年度試験

一、蠶繭解舒及絲量算定試験

四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

大正四年度製絲經濟試驗成績

一、煮繭試験

イ、浮繰及沈繰比較(其ノ一)

本試験ハ浮繰及沈繰ノ成績ヲ比較センカ爲メ岐阜縣製絲同業組合製絲講習所及岐阜縣蠶業製絲株式會社ニ於テ浮繰試験ヲ行ヒ岐阜縣勝野製絲場及山縣縣教婦養成所ニ於テ沈繰試験ヲ行ヒ右四箇所ノ成績ヲ比較對照セリ。其ノ成績左表ノ如シ

繰絲工程、生絲及屑物量表

種別	繭		沈繰		生絲		諸絲		蛹		物		蛹重		減耗	
	重量	種類	時間	時間	重量	量	量	個數	個數	重量	重量	重量	重量	量	量	量
製絲講習所	一七四〇	浮繰	一四三	三・〇	八八・四九	五八〇・五	八八・〇	四五〇	二〇三	一七〇〇	八七	七〇〇	五七〇〇	八〇〇・〇	一九三七	
岐阜蠶業製絲株式會社	一七四〇	同	一五五	一・〇〇	八〇・五〇	五四五・〇	一〇五・〇	四一五	四一	三七五	一七五	一三九〇	一六三・八五	五五八・〇	二七三・二	
同上浮繰平均	—	—	一四九	六・五	八四・四九	五六二・八	六六五	四三・一	一一二	一〇七五	一三二	一〇五〇	一六〇・四〇	七六一・五	二二三・五	

岐阜勝野製絲場	一七四〇	沈繰	—	三〇	九・〇	九	五五・〇	七六・八	五六・五	九〇	六七〇	七二	五・〇	一四五・〇	七三五	三二〇・六
山縣教婦養成所	一七四〇	同	(報告未着)	—	—	—	五六・五	八九・六	七六・二	一一〇	三四〇	—	—	一六九・〇	八七〇	一七八・五
同上沈繰平均	—	—	—	—	—	—	五六・三	八三・二	六六・四	一〇〇	五〇・五	三五	二・五	一五七・五	七八一・三	二四四・五

生絲検査成績表

製絲講習所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蠶業製絲株式會社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同上浮繰平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
勝野製絲場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山縣教婦養成所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同上沈繰平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ロ、浮繰及沈繰比較(其ノ二)

本試験ハ解舒不良繭ノ浮繰及沈繰ノ可否ヲ知ラン爲メ岐阜縣製絲同業組合製絲講習所ニ於テ

種目	乾繭重量	類數	養繭回数	時間	純繰時間	生絲重量	緒絲重量	繭殼重量	揚繭個數	殘繭個數	繭物重量	合計重量	繭重量	減耗量
浮繰	九九〇〇	—	七五	五〇〇	五七・二	三・六四〇	五九・八	三六・七	—	九〇	—	一・〇五五	四三・三	一一九・八〇
沈繰	九九〇〇	—	三三〇	二・三〇	五〇〇・〇	三・七七〇	六四・七	二八・七	—	一一六	—	一一・五〇〇	四一・四	一五三・六二

解舒不良ナル乾繭九貫九百匁宛ヲ以テ浮繰及沈繰ヲ比較ス其ノ成績左表ノ如シ

繰絲工程生絲及屑物量表

種類	色澤	等級	最太	最細	平均	大類	小類	平均	最多	最少	平均	最多	最少	平均
浮繰	—	—	一九〇	七〇	一三三	四	五〇・八八	五〇・九二	五六・三	二六・七	四四・九八	一一八・八	六八・七	九五・六一
沈繰	—	—	一七五	八〇	一三四	一四	三六・〇〇	三六・一四	六〇・〇	三三・三	四五・〇三	一一八・五	六九・〇	九五・五一

生絲検査成績表

以上ノ表ニ依ツテ之ヲ見ル時ハ  
 工程 (其ノ一) ニ於テハ不明ナルモ (其ノ二) ニ於テハ沈繰ハ一割五分七厘ノ進捗ヲ見ル

絲量 (其ノ一) ニ於テハ浮線ハ〇、四四六%ノ多キヲ示シ (其ノ二) ニ於テハ沈線〇、二八一%ノ多キヲ示セリ。兩者ヲ平均スレハ浮線ハ〇、〇六%ノ多キヲ見ル

屑物量 (其ノ一) (其ノ二) ヲ總シテ緒絲量ハ沈線五分一厘四毛多ク蛹襪量ニ於テ沈線一割六分多シ

但シ屑物量ハ (其ノ一) (其ノ二) ニ於テ浮沈兩者反對ノ成績ヲ表ハシ明瞭ヲ缺ク

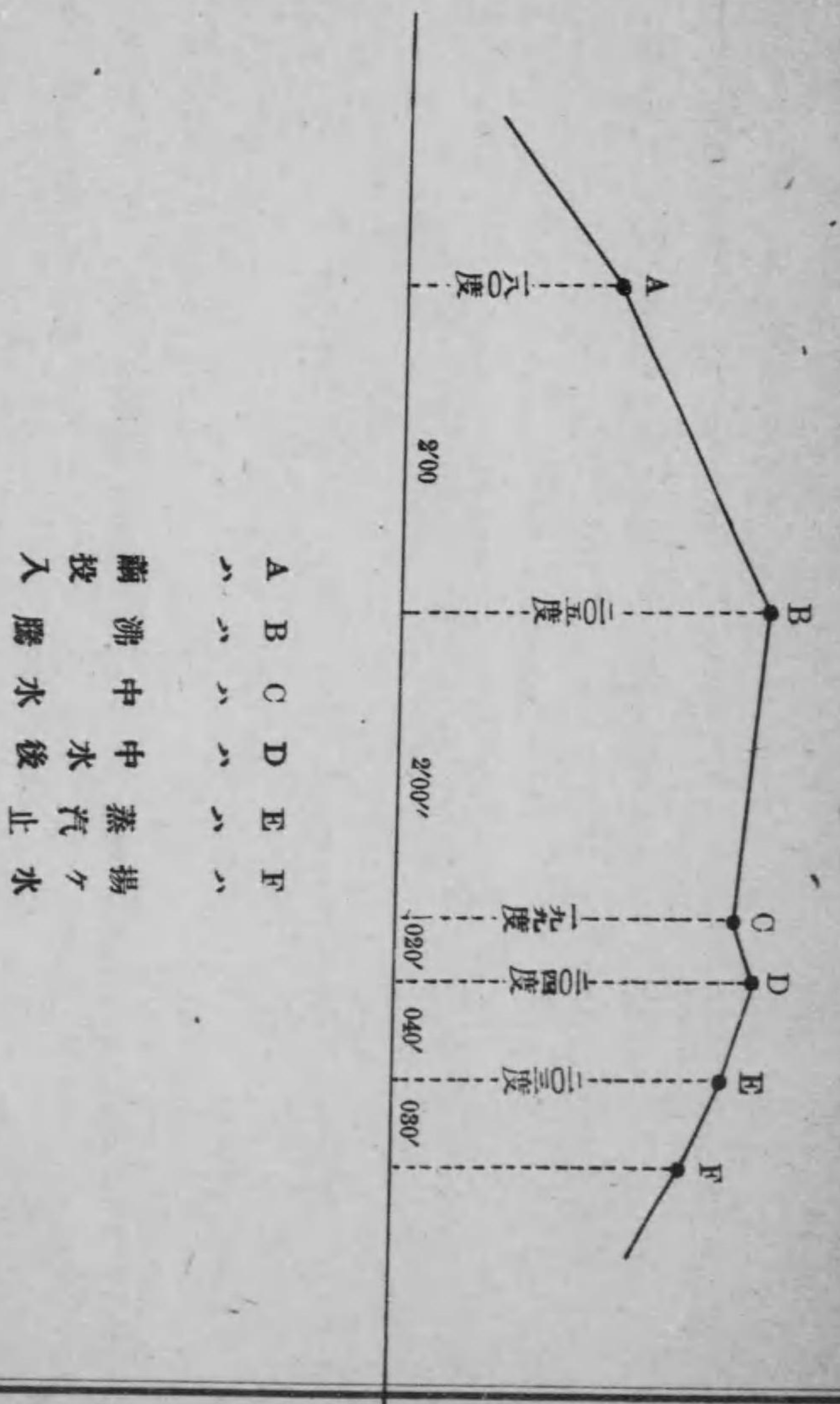
減耗量 (其ノ一) (其ノ二) ヲ通シ沈線ハ一割六分三厘多シ

類節 (其ノ一) ニ於テ大類浮ニ多ク (其ノ二) ハ之ニ反ス小類ハ (其ノ一) (其ノ二) 共浮線ニ多シ

強伸力 強力ハ (其ノ一) ニ於テ浮線大ニ (其ノ二) ニ於テ沈線大ナルヲ示ス。伸度ハ (其ノ一) (其ノ二) ヲ通シ沈線四分九厘七毛多シ

以上ノ成績ニ依リ之ヲ總括シテ論スル時ハ製絲經濟ノ大眼目タル工程及絲量ニ於テ解舒良好ナル原料ヲ使用スル場合沈線ハ其効果ナク却ツテ浮線ノ成績良好ナルカ如シト雖解舒ノ不良ナルニ從ヒ沈線ノ成績佳良ナルカ如シ

備考 前 (其ノ二) ニ於ケル沈線養繭溫度竝ニ其ノ處理左ノ如シ



二、製絲職工能率増進ニ關スル成績

A 素質ト能率トノ關係

外的關係ノ年齢、體格、職業及內的關係ノ教育程度、學業成績趣好學科ノ六項目トシ其ノ方法ハ百二十日間各人ノ合計成績ニ依リ調査セリ

項目	年齢	平均一總絲歩	織度
身長	十七歲(五人平均)	八二四・二	一九七二
	十六歲(十二人平均)	七五三・六	一九七八
	十五歲(十三人平均)	七三三・五	一九七三
	十四歲(廿人平均)	六九九・九	一九七八
體格	十七歲(五人平均)	七三三・六	一九七二
	十六歲(十二人平均)	七五三・六	一九七八
	十五歲(十三人平均)	七三三・五	一九七三
	十四歲(廿人平均)	六九九・九	一九七八

右成績ニ依レハ工程ハ年齢ニ比例シ絲歩ハ其ノ優劣ヲ定メ難キモノノ如シ

ロ、體格

身長體重ノ二項目ニ就キ調査ス

項目	身長	平均一人ノ絲歩	織度
身長	四尺八寸以上(八寸ヲ含ム)	七六四・五	一九七六
	四尺六寸以上(八寸ヲ含ム)	七三三・六	一九七二
	四尺四寸以上(六寸ヲ含ム)	六八八・六	一九七七
	四尺四寸以下(四寸ヲ含ム)	六八四・七	一九七六
體重	十二貫以上(十二貫ヲ含ム)	七九一・七	一九七六
	十貫以上(十二貫ヲ含ム)	七三三・七	一九七六
	八貫以上(十貫ヲ含ム)	六八四・一	一九七九
	八貫以下(八貫ヲ含ム)	七〇九・九	一九七一

項目	體重	平均一人ノ絲歩	織度
身長	四尺八寸以上(八寸ヲ含ム)	七六四・五	一九七六
	四尺六寸以上(八寸ヲ含ム)	七三三・六	一九七二
	四尺四寸以上(六寸ヲ含ム)	六八八・六	一九七七
	四尺四寸以下(四寸ヲ含ム)	六八四・七	一九七六
體重	十二貫以上(十二貫ヲ含ム)	七九一・七	一九七六
	十貫以上(十二貫ヲ含ム)	七三三・七	一九七六
	八貫以上(十貫ヲ含ム)	六八四・一	一九七九
	八貫以下(八貫ヲ含ム)	七〇九・九	一九七一

工程ハ體格ノ優良ナルモノ著シク勝ルト雖絲歩ハ體格ノ中位ナルモノ却ツテ多キ傾向アリ

ハ、家庭ノ職業

農業、商業、工業、雜業トニ分チテ調査セリ



職業成績	人員		人員		人員	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
農	三	九	三	五	八	五
商	二	五	二	三	一	六
工	一	二	一	二	一	一
雜業	二	一	三	五	一	六
合計	八	一七	九	一五	一	一八
パーセント	37.5%	47.1%	37.5%	47.1%	37.5%	47.1%

備考 雜業ハ官吏教師ヲ含ム

右成績ニ依レハ農家ノ子女ハ一般ニ着實ニシテ熱心努力忍耐等ノ美點ニ富ミ身體モ又強健ナルモノ多ク從ツテ成績良好ナルカ如シ、之レニ亞クモノハ工業、官吏、教師等ノ子女ニシテ商家ノ子女ハ概シテ成績不良ナルモノ多キヲ示セリ

ニ、教育程度

高等小學校卒業、尋常小學校卒業ノ二者ニ分チ調査セリ

項目	教育程度	人員	パーセント
平均一總絲歩	高等卒業 (十人平均)	一九七五	37.5%
	尋常卒業 (四十人平均)	二二九	47.1%
總絲量		七五三三	
		七二四三六	

平均一總絲歩 一九七五  
織度 二二九

右成績ニ徴スルニ其ノ良否ハ教育程度ニ比例スルモノ、如シ但シ年齢ノ關係ヲ有ス

ホ、學業成績

學業平均點數九點、八點、七點、六點以下 (各出身學校ノ成績ニ依ル)ノ四項ニ分チ調査セリ

項目	學業成績	人員	パーセント
平均一總絲歩	九點以上 (十一人平均)	七三六六	37.5%
	八點 (十三人平均)	七四二九	47.1%
	七點 (十八人平均)	七三九六	37.5%
	六點以下 (八人平均)	七〇一七	47.1%
織度		二二八	
		二二九	

右成績ニ依レハ七點以上ハ何レモ良好ニシテ大差ナシト雖六點以下ノモノハ技術不良ニシテ成績劣ルヲ見ル

へ、趣好學科

手工及裁縫、算術及理科、修身及國語、體操及唱歌、特有學科無キモノ等五項ニ分チ比較調査セリ

項目	趣好成績	手工及裁縫(十七人平均)	算術及理科(六人平均)	修身及國語(十人平均)	體操及唱歌(七人平均)	特有學科無(十人平均)
線 絲 量	七四〇・二六	七四〇・二六	七〇六・三三	七五〇・四三	七五二・六一	六九二・五七
平均一縷絲步	一九七七	一九七五	一九七五	一九七八	一九七三	一九七一
織 度	二二九 デニール	二二九	二二九	二二九	二二八	二二八

右成績ニ依レハ體操及唱歌ノ如キ學科ノ趣好者ハ工程最モ進捗シ修身及國語ノ趣好者ハ絲量ノ多キ傾向アリ

以上ノ成績ヲ總括シテ論スレハ體質健全ナルモノニシテ學術優良ナルモノハ技術優秀ニシテ一般ノ成績亦佳良ナリ。此等ノ子女ハ山間地方ノモノニシテ町家ノ子女ハ比較的劣ルモノ、如シ

B 能率誘發試驗

方法ハ普通作業ト懸賞法施行作業ノ成績ニ比較調査セリ

但シ懸賞ハ金錢ヲ以テシ優等一名壹圓、一等二名各八拾錢、二等三名各七拾錢、三等五名各五拾錢ヲ給與ス

月 日	項目	五十人平均	乾 繭	織 度	一日線絲時間	摘 要
六月 二十四日		八三四	一九四	二二八	二二〇	試驗ヲ行ハサル時
同 二十五日		八五八	一九一	二二八	二二〇	同
同 二十六日		八六二	一九六	二二七	二四〇	同
同 二十七日		八七八	一九九	二二八	二二〇	同
同 二十八日		八八三	二〇〇	二二七	二二〇	能率誘發試驗
同 二十九日		八七八	一九八	二二七	二五〇	同
同 三十日		九〇五	二〇三	二二八	二五〇	同
七月 二日		九一・一	二〇三	二二九	二二〇	同
同 三日		八八二	二〇三	二二八	二二〇	同
同 四日		九三・一	二〇三	二二八	二二五	同
同 五日		八六二	二〇一	二二〇	二二〇	同



六月二十四日	八三・四	一九四	二八	試驗開始
同 二十五日	八五・八	一九二	三〇	同
同 二十六日	八六・二	一九六	三三	同
同 二十七日	八七・八	一九九	三二	同

右ノ成績ニ依レハ普通作業ノ際一人一日ノ繰絲高六十一夕八分ニシテ乾繭六十夕ニ對シ絲量十八夕五分ナレトモ督勵後ニアリテハ一人一日繰絲量八十二夕五分ニシテ乾繭六十夕ニ對スル絲量二十夕ヲ得タリ。其ノ差工程ニ於テ二十夕七分絲量一分五厘ノ増加ヲ表ハセリ

三、蠶繭膠質變化試驗

方法ハ乾燥前蒸殺一〇分時ノモノト普通直乾繭トヲ繰絲シ比較調査セリ

繰絲工程生絲及屑物量表

種別	目標	乾繭		養繭		純繰絲		緒絲		屑物		合計		蛹重		減耗	
		重量	顆數	回数	時間	時間	重量	量	量	個數	重量	個數	重量	重量	量	量	量
蒸殺十分間	普通	三・一五二	二六・六四	一五九	五・一五	一〇・四九	一三五五	九九・〇	二二三	二七〇	二六	一七	二五三・二	一三八九	四六六・九		
		(生〇〇)															
普通乾	乾	三・一六六	二八・七八	二八四	三・一六	一〇・五九	一四〇〇	一〇〇・〇	二二二	二一〇	五〇	三五	二五五・五	一四二〇	四二四・六		
		(生〇〇)															

生絲檢查成績表

別目	標色	織		度		類		節		強		力		伸		度	
		等級	最太	最細	平均	太類	小類	合計	最多	最少	平均	最多	最少	平均	最多	最少	平均
蒸殺十分間	普通	一	一〇・五	九〇	一一・三	二六・四	一八九・二	二二五六	五五・五	三五・四	四三・六	一一八	八七・二	九九・〇			
		一	一三・六	九八	一一・〇	二〇・八	二三〇・〇	二五〇・八	五五・〇	三三・〇	四二・一	一五〇・〇	七〇・〇	一一五・〇			

右成績ニ依テ見ル時ハ

- 工程 蒸殺ノモノ一、八二%ノ進捗ヲ見ル
- 絲步 普通直乾ノモノ〇、四二%増加ヲ示セリ
- 屑物 普通直乾ノモノ〇、五二%多シ
- 減耗量 蒸殺ノモノ一、〇〇%多シ
- 類節 大類ハ蒸殺繭ニ多ク小類ハ普通直乾ノモノニ多シ
- 強伸力 強力ハ蒸殺繭ニ多ク伸度ハ直乾繭大ナリ

四、繳掛（クンネル）裝置試驗

標準、鼓及集緒器ノ近接、鼓及集緒器ノ隔離、降下繳止裝置（一）（二）（列表寸法ニ依ル）ノ

五項ニ就テ比較調査ヲ行ヘリ

備考 降下織防止裝置ハ集緒器上方ニ硝子鈎ヲ以テ織止ヲナセリ

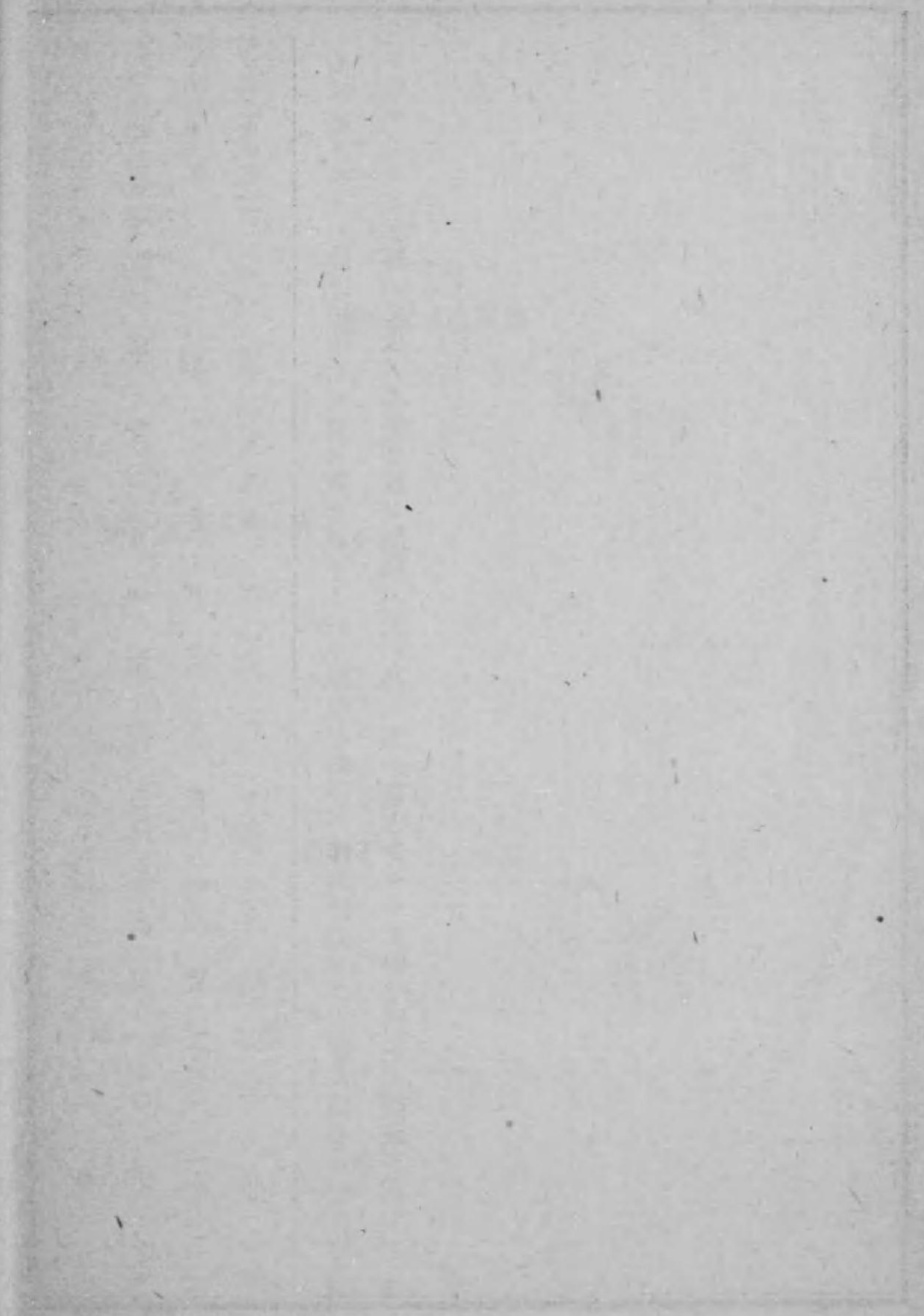
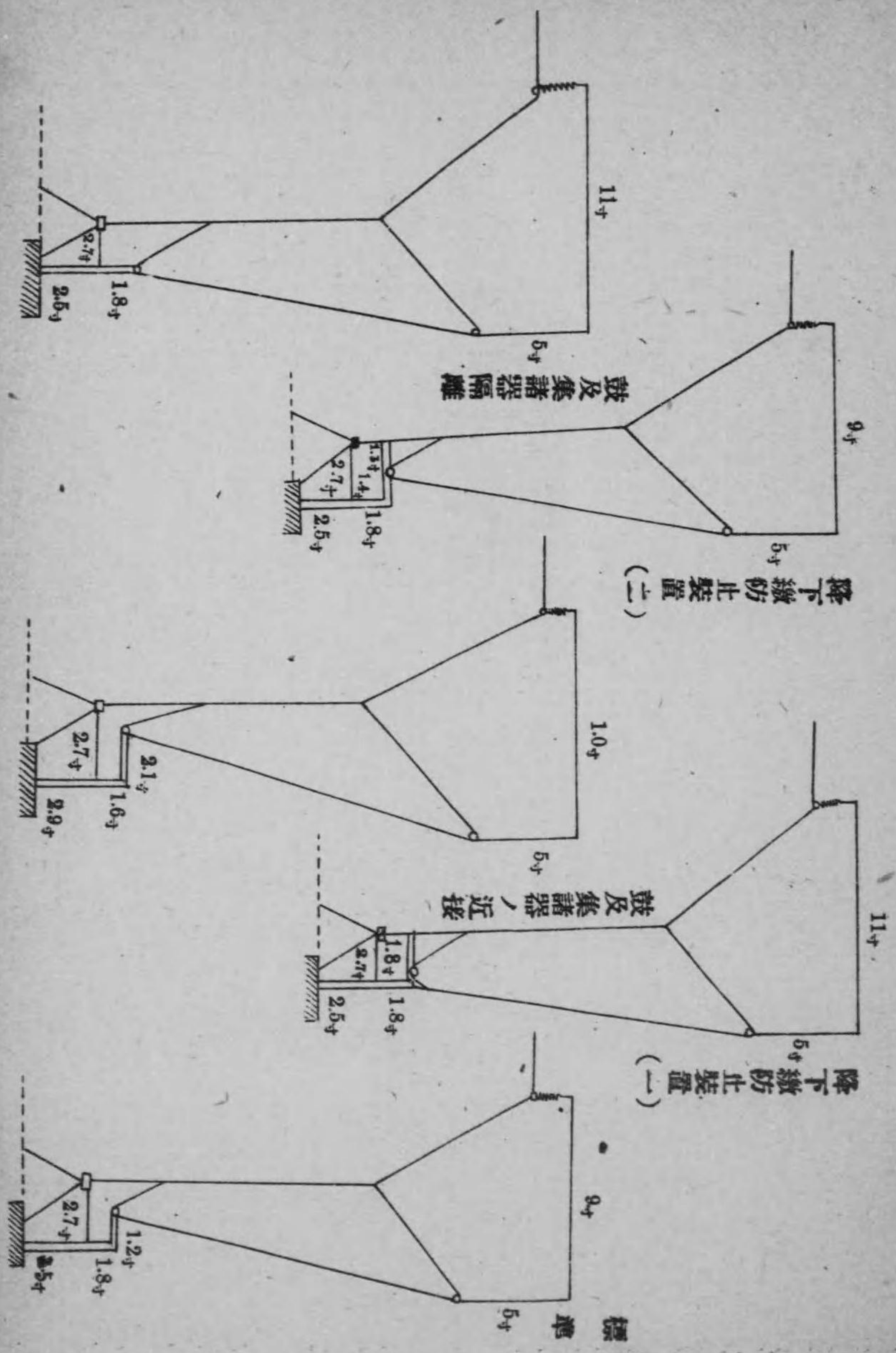
線絲工程生絲及屑物重量表

種別	目	標準	乾繭		養繭		純繭		生絲		屑物		合計		減耗	
			重量	顆數	回数	時間	時間	時間	重量	重量	個數	重量	個數	重量	重量	重量
鼓及集緒器近接 鼓及集緒器隔離	降下織防止裝置(一)	同	一七四	一一二四	一五	六七五八	二〇	五九七三	一〇七〇	四・八	六	八五	四・一五	一七〇三	七五・七五	二・四九
		同	一一〇九	一五	六七四三	二三	五九九五	一一〇〇	三八五	五	四〇	九・六五	一五九〇	七六・〇〇	二・二五	
		同	一一〇四	一五	六七二〇	一七	六〇三〇	一〇九〇	四〇〇	三	三〇	六・七五	一六・二五	七六・五〇	二〇・九五	
		同	一一一三	一五	六七三三	一四	六〇九〇	一〇六五	三七五	四	三五	七・六〇	一五・三五	七五・〇〇	二・七五	
鼓及集緒器近接 鼓及集緒器隔離	降下織防止裝置(二)	同	一〇一	一一〇	一五	六七〇六	一一	六〇〇五	一〇五〇	四・〇	六	八〇	八・七五	一六・二五	七六・五〇	二・三〇
		同	一一〇	一一〇	一五	六七〇六	一一	六〇〇五	一〇五〇	四・〇	六	八〇	八・七五	一六・二五	七六・五〇	二・三〇
		同	一一〇	一一〇	一五	六七〇六	一一	六〇〇五	一〇五〇	四・〇	六	八〇	八・七五	一六・二五	七六・五〇	二・三〇
		同	一一〇	一一〇	一五	六七〇六	一一	六〇〇五	一〇五〇	四・〇	六	八〇	八・七五	一六・二五	七六・五〇	二・三〇

生絲檢查成績

種別	目	標準	色澤		纖度		類		節		強		力		伸		度
			等級	最太	最細	平均	大類	小類	合計	最多	最少	平均	最多	最少	平均		
鼓及集緒器近接 鼓及集緒器隔離	降下織防止裝置(一)	一	一一〇	一一〇	一〇〇	一〇九	〇	四八	四八	五・五	四・九	五・一	一一三〇	九六	一一三		
		二	一一二	九〇	一一六	四	六四	六八	五・四	四・四	四・九	九六〇	七三	八八			
		一	一一七	一〇五	一一六	八	八四	九二	五・六	四・六	四・八	一一三〇	一一三	二七			
		二	一一〇	一一五	一一五	二・五	一三六	一四八	五・二	三・三	四・七	一一八〇	九〇	一〇五			
鼓及集緒器近接 鼓及集緒器隔離	降下織防止裝置(二)	一	一一〇	一〇〇	一〇九	〇	四八	四八	五・五	四・九	五・一	一一三〇	九六	一一三			
		二	一一二	九〇	一一六	四	六四	六八	五・四	四・四	四・九	九六〇	七三	八八			
		一	一一七	一〇五	一一六	八	八四	九二	五・六	四・六	四・八	一一三〇	一一三	二七			
		二	一一〇	一一五	一一五	二・五	一三六	一四八	五・二	三・三	四・七	一一八〇	九〇	一〇五			

右成績ニ依レハ降下織防止裝置ヲ施セルモノハ線絲中切斷少ク作業便ニシテ工程及絲歩ニ於テ勝ル所アレトモ添緒ニ多少ノ不便ヲ感シ類節ハ大小共ニ多ク強力少クシテ伸度稍多キ結果ヲ示セリ



大正五年度製絲經濟試驗成績

# 大正五年度製絲經濟試驗成績

## 其一 能率試驗

### 一、試驗ノ目的

製絲職工ノ素質即チ年齡、體格、家庭ノ職業、教育程度、學業成績、趣好學科等カ職工能率ト如何ナル關係ヲ有スルカ、職工能率ト勞動時間、能率誘發及絞出方法等ノ事項ハ工場法ノ實施ト共ニ製絲經濟上最モ必要ナル事項ナリ故ニ之等ノ關係及誘發絞出ノ方法ヲ研究セントスルニ在リ

### (イ) 素質試驗

#### 一、試驗ノ方法

岐阜縣製絲同業組合立製絲講習所ニ於テ講習生ニ就キ年齡、體格、家庭ノ職業、教育程度、學業成績、趣好學科等ノ調査ヲ行ヒ之等ノ事項ト其繰絲成績トノ比較調査ヲ行ヘリ

一、試驗成績



(イ) 年齢

項目	年齢	人数	線 糸 量	平均一総糸量	織 度
備考 織度ハ十二デニール目的ナリ以下同シ (次ニ大正四年度執行) 試験成績ヲ示セバ	十七歳	(四人)	六、四六六・〇九	一、八九七	二、二二〇
	十六歳	(九人)	六、七三三・〇九	一九二七	二、一九八
	十五歳	(十六人)	六、六二七・〇八	一、八九四	二、二一〇
	十四歳	(十八人)	六、七三六・〇一	一九〇七	二、二三三

項目	年齢	人数	線 糸 量	平均一総糸量	織 度
右成績ニ依レハ工程糸歩ハ年齢ニ依リ其ノ優劣ヲ定メ難キモノ、如シ	十七歳	(五人)	八、二四六・〇二	一九七二	二、三〇〇
	十六歳	(十二人)	七、五三三・〇六	一九七六	二、二七〇
	十五歳	(十三人)	七、三二一・〇五	一九七三	二、三〇〇
	十四歳	(二十人)	六、九九八・〇九	一九七八	二、二八〇

(ロ) 体格

身長體重ノ二項目ニ就キ調査ス

身長

項目	身長	人数	線 糸 量	平均一総糸量	織 度
身長體重ノ二項目ニ就キ調査ス	四尺八寸以上	(九人)	六、八七二・〇五	一九二八	二、二四〇
	四尺六寸以上	(二十人)	六、六四三・〇六	一九〇七	二、二一〇
	四尺四寸以上	(十七人)	六、七三四・〇六	一九一〇	二、二〇〇
	四尺三寸九分以上	(四人)	六、七六九・〇四	一九〇四	二、一九〇

體重

項目	體重	人数	線 糸 量	平均一総糸量	織 度
身長體重ノ二項目ニ就キ調査ス	十二貫以上	(六人)	七、〇五〇・〇九	一、八七六	二、二二〇
	十貫以上	(二十人)	六、七六一・〇三	一九二六	二、二〇〇
	八貫以上	(二十一)	六、五四九・〇九	一九〇二	二、二五〇
	七貫九百々下	(三人)	七、〇七〇・〇八	一九一六	二、一九〇

(次ニ大正四年度執行) 試験成績ヲ示セハ

項目	身長
以四尺八寸上(十三人)平均	七六四・〇五
以四尺六寸上(十四人)平均	七八〇・〇六
以四尺四寸上(十三人)平均	六八八・〇六
以四尺四寸下(十人)平均	六八四・〇七

身長

體重

項目	量
十二貫以上(十二人)平均	七九二・七五
十貫以上(十六人)平均	七三六・〇七
八貫以上(十六人)平均	六八四・〇一
八貫以下(二人)平均	七〇九・〇九

右成績ニ依ル時ハ工程ハ體格ノ優良ナルモノ勝ルト雖モ絲歩及織度ハ之ニ反スルノ傾向アリ

(ハ) 家庭ノ職業

農業、商業、工業、雜業トニ分テテ調査セリ

職業項目	人員	パーセント
農業	八	二七
商業	一	三
工業	四	一三
雜業	三	一〇

(次ニ大正四年度執行) 試験成績ヲ示セハ

職業項目	人員	パーセント
農業	三	七
商業	二	五
工業	一	三
雜業	二	五

備考 雜業ハ官吏教師ヲ含ム

右成績ニ依レハ工業、官吏、教師、農家ノ子女ハ一般ニ著實ニシテ成績良好ナルモ商家ノ子女ハ概シテ成績不良ナルモノ多キヲ示セリ

(二) 教育程度

高等小學校卒業、高等科一學年修業、尋常小學校卒業ノ三者ニ分チ調査セリ

項目	高卒 (五人平均)	高一修 (十一人平均)	尋卒 (三十四人平均)
繰上	六四二・〇一	六、五五〇・〇七	六八七・〇八
平均一綴	一八九・九五	一九〇・六	一九二・四
綴度	一一・〇三	一一・〇三	一一・〇〇

備考 高卒ハ高等小學校卒業、高一修ハ高等一學年修業、尋卒ハ尋常小學校卒業ナリ  
(次ニ大正四年度執行) 試験成績ヲ示セハ

項目	高等卒業 (十人平均)	尋常卒業 (四十人平均)
繰上	七五三・七三	七二四・〇六

平均一綴綴量  
綴度

一九七・五  
一二〇・九

一九七・六  
一二〇・九

右成績ニ依ルトキハ大正四年度ノ試験成績ハ教育程度ニ比例シテ綴綴成績良好ナルカ如シト雖モ大正五年度ノ試験成績ハ之ニ反スルカ如キ傾向アリ之等ハ要スルニ教育程度ノ如何ヨリモ學業成績ニ關係多キモノ、如シ

(ホ) 學業成績

學業平均點數九點以上、八點、七點、六點以下 (各出身小學校ノ成績ニ依ル) ノ四項ニ分チ調査セリ

項目	九點以上 (二十三人平均)	八點 (十三人平均)	七點 (九人平均)	六點以下 (三人平均)
繰上	六、七四五・〇四	六、八九四・〇七	六、七六六・〇九	五、六二七・〇五
平均一綴	一九〇・六	一九一・六	一九二・〇	一八八・七
綴度	一一・〇〇	一一・〇九	一一・〇一	一一・〇〇

次ニ (大正四年度執行) 試験成績ヲ示セハ

項 目	學業成績	
	九點以上 (十一人) 平均	八點 (十三人) 平均
繰 糸 量	七三六・〇〇	七四二・〇九
平均一 繰 糸 量	一九八〇	二一七七
織 度	三・〇一	二・〇八
		七三九六・〇一
		一九七五
		二・〇八
		七〇一七・〇八
		一九六五
		二・〇九

右成績ニ依ルトキハ七點以上ハ何レモ成績良好ニシテ大差ナキモ六點以下ノモノハ技術不良ニシテ成績劣等ナルヲ見ル

(一) 趣好學科

手工及裁縫、算術及理科、修身及國語、體操及唱歌、特有學科ナキモノ五項ニ分チ比較調査セリ

項 目	趣好學科	
	手工及裁縫 (十三人) 平均	算術及理科 (十一人) 平均
繰 糸 量	六六八〇・〇八	六六一六・〇三
平均一 繰 糸 量	一九三二	一九〇九
織 度	二・〇一	二・〇〇
		六八二・〇三
		一九一五
		二・〇〇
		六六五七・〇〇
		一九〇四
		二・〇四
		六六二〇・〇一
		一九〇七
		二・〇〇

次ニ(大正四年度執行試驗成績ヲ示セハ)

項 目	趣好學科	
	手工及裁縫 (十七人) 平均	算術及理科 (六人) 平均
繰 糸 量	七四〇一・〇六	七〇六〇・〇三
平均一 繰 糸 量	一九七七	一九七五
織 度	二・〇九	二・〇一
		七五〇四・〇三
		一九七八
		二・〇九
		七五二六・〇一
		一九七三
		二・〇八
		六九二五・〇七
		一九七二
		二・〇八

右成績ニ依ル時ハ大正四年度試驗成績ハ體操及唱歌ノ如キ學科ノ趣好者工程最モ進捗シ修身及國語ノ趣好者ハ絲量多キ成績ヲ示セルモ大正五年度試驗ハ修身及國語ノ趣好者ハ工程絲量共ニ多キ成績ヲ示セリ

此ノ兩成績ニ就テ見ルニ手工及裁縫、修身及國語、體操及唱歌等ノ趣好者ハ其他ニ比シ何レモ成績良好ニシテ特有學科ナキモノハ其ノ成績劣等ナルモノ、如シ

- 一、繰糸技術ノ優劣ハ年齢ニ左右セラル、事少シ
- 二、體格優良ナルモノハ工程進捗スト雖モ稍モスレハ絲歩品位ヲ劣等ナラシムル傾向アリ

三、工業、官吏、教師及農家ノ子女ハ一般ニ成績良好ニシテ商家ノ子女ハ概シテ成績不良ナリ  
 四、教育程度ノ高低ハ（尋常小學校卒業以上ノ者ニ就テ）繰絲技術ノ優劣ニ大ナル影響ナシ  
 五、學業成績七點以上ノ者ハ一般ニ成績良好ニシテ六點以下ノ者ハ技術不良ニシテ成績劣等ナリ  
 六、手工及裁縫、修身及國語、體操及唱歌等ノ趣好者ハ其他ノ者ニ比シ成績良好ニシテ特有學科ナキモノハ其成績劣等ナリ

(ロ) 經濟上最モ有功ナル勞働時間ノ程度

一、試驗ノ方法

一日ノ勞働時間、十時間、十一時間、十二時間、十三時間、十四時間等ニ區分シ十日間宛五  
 十日間ノ試驗ヲ行ヒ其成績ヲ比較調査セリ

一、試驗成績

(イ) 勞働十四時間區

目次	項目	目
一	五十名一日繰リ高	三、二二六
	絲量(乾繭六十匁)	一八八六
	織	
	度	二二五五
	摘	
	要	

(ロ) 勞働十三時間區

目次	項目	目
一	五十名一日繰リ高	二、八二五
	絲量(乾繭六十匁)	一八九〇
	織	
	度	二二二〇
	摘	
	要	

一日平均	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
繰リ高	三、〇七六・九	三、〇五〇・〇	三、二六二・五	三、三三七・七	三、一〇四・五	二、九〇〇・五	二、九九八・〇	三、〇八四・〇	三、〇〇〇・五
絲量	一八六五	一八四八	一八六七	一八八三	一八八八	一八五六	一九〇一	一八七〇	一八七二
織									
度	二二五〇	二二六〇	二二五五	二二八〇	二二三〇	二二五〇	二三〇〇	二二〇〇	二二一〇
摘									
要									

(ニ) 労働十一時間區

目次	項目										
	一日平均	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	
一	五十名一日繰り高	二八〇五・〇	二八三五・五	二九七一・五	二七四四・〇	二七二一・〇	二九四九・五	二七三七	二八三二	二六六〇	二八八三
	絲量(乾繭六十匁)	一九九五	一九二七	一九七六	一八八四	一八八二	一九一三	一九四一	一九一四	一八四四	一九八五
	織										
	度	二一九八	二二〇〇	二二七五	二二八〇	二二八五	二二八〇	二二二〇	二二二五	二二一〇	二二〇五
	摘										
	要										
	ニ〇・四・五										
	一九・〇・一										
	二二・〇・〇										

三二

(ハ) 労働十二時間區

目次	項目										
	一日平均	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	
一	五十名一日繰り高	二八七八・四	二八八〇・〇	二六四四・五	二九六九・七	二八四九・七	二九二〇・二	二七九三・〇	二八〇二・〇	二六九二・四	三三三〇・〇
	絲量(乾繭六十匁)	一八八六	一八七二	一八四一	一八七五	一八七三	一九二〇	一九二三	一八七八	一八九〇	一九九三
	織										
	度	二二〇三	二一八五	二二四〇	二二三〇	二二五五	二二五〇	二一八〇	二一五〇	二一八〇	二二四〇
	摘										
	要										
	二八〇六・五										
	一八・八・九										
	二二・二・〇										

三三〇

(ホ) 労働十時間区

目次	項目	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
一日平均	五十名一日繰り高	二、二八三・〇	二、二六六・一	二、二六八・五	二、二六八・五	二、二六九・五	二、二六九・五	二、二六九・五	二、二六九・五	二、二六九・五	二、二六九・五
	絲量(乾繭六十夕)	一八・九八	一八・九九	一八・九七	一八・九七	一九・二〇	一九・二一	一九・九八	一八・八八	一八・七八	一八・六七
織度	織	一一・八五	一一・七〇	一一・二二	一一・二〇	一一・〇五	一一・〇五	一一・八五	一一・九〇	一一・九〇	一一・九四
	摘										
要											

以上ノ成績ヲ總括スル時ハ

目次	項目	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
一日平均	五十名十日間ノ平均一日繰り高	二、四七五	二、二七五・〇	二、二三五・〇	二、二〇二・〇	二、〇九二・五	三、六三五・〇	二、三四八・〇	二、五六〇・〇	二、七四四・四	二、四八一・八
	同上絲量	一八・九〇	一九・〇七	一九・一〇	一八・九四	一八・九五	一九・〇五	一九・〇〇	一八・九八	一八・九五	一八・九七
織度	織	一一・九〇	一一・五〇	一一・七五	一一・八九	一一・〇〇	一一・一〇	一一・八五	一一・一〇	一一・一〇	一一・九〇
	摘										
要											

勞働 十一時間區	二六九九・二	一八九六	一一九四	二四五・八	生徒疲勞
同 十二時間區	二八〇五・一	一八九五	一一九八	二三七・五	生徒疲勞
同 十三時間區	二七六四・〇	一八八六	一二〇三	二二四・二	生徒疲勞甚シ
同 十四時間區	三二〇二・七	一八七二	一二〇九	二二六・二	生徒疲勞最モ甚シ

次ニ體重調査成績ヲ示セバ

體重調査成績表

生徒番號	項目	普通作業時	勞働十四時間	勞働十三時間	勞働十二時間	勞働十一時間	勞働十時間
一		九五六〇	九三三〇	九六〇〇	九八七〇	一〇三九〇	一〇一一〇
二		一〇五四〇	一〇三三〇	一〇六五〇	一〇六九〇	一一一一〇	一〇〇〇〇
三		九八三〇	九六三〇	九七五〇	九八一〇	一〇一七〇	九九八〇
四		八八〇〇	八六二〇	九〇八〇	九二二〇	九六〇〇	九二二〇
五		二二五〇	二二二〇〇	二二五六〇	二二六〇〇	二二七八〇	二二五二〇
六		八八一〇	八八〇〇	九〇八〇	九一五〇	九五〇〇	九三九〇

七	九八七〇	九八三〇	一〇一七〇	一〇一〇〇	一〇四四〇	一〇一一〇
八	九六四〇	九四三〇	九八八〇	九九六〇	一〇〇〇〇	九九七〇
九	一〇四二〇	一〇二七〇	一〇六五〇	一〇八〇〇	一八九〇	一〇七四〇
一〇	九五九〇	九四〇〇	九六五〇	九七九〇	一〇二二〇	九八五〇
一一	九八九〇	九八一〇	九七五〇	九八四〇	一〇一三〇	一〇九〇
一二	二二五二〇	二二一八〇	二二三〇	二二五六〇	二二八四〇	二二六八〇
一三	一〇五六〇	一〇三三〇	一〇八〇〇	一〇八〇〇	一一〇九〇	一〇八二〇
一四	八八八〇	八七四〇	八八五〇	九〇四〇	九三〇〇	九〇五〇
一五	九四二〇	九二九〇	九四〇〇	九五四〇	九七八〇	九五三〇
一六	一三二五〇	三二一六〇	一三三三〇	一三五四〇	一三二九〇	一三五一〇
一七	九〇四〇	八九九〇	九二〇〇	九三三〇	九五四〇	九三三〇
一八	一〇〇一〇	九九七〇	一〇三三〇	一〇五〇〇	一〇七二〇	一〇五八〇
一九	八九五〇	八九二〇	九二〇〇	九三〇〇	九五八〇	九三六〇
二〇	一〇五二〇	一〇四五〇	一〇五〇〇	一〇六〇〇	一〇六七〇	一〇四三〇
二一	九〇八〇	八九七〇	九三三〇	九三六〇	九五七〇	九五二〇



平	均	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七
九,七七七	九,三九〇	一〇,二五〇	八,九一〇	一〇,二八〇	一〇,二七〇	九,五二〇	九,八五〇	九,七二〇	一三,二九〇	七,六八〇	八,三六〇	一〇,一九〇	一一,四八〇	九,八六〇	
九,六七六	九,四三〇	一〇,一三〇	八,七八〇	一〇,三七〇	一〇,三〇〇	九,四三〇	一〇,〇四〇	九,四〇〇	一三,一四〇	七,七七〇	八,二四〇	一〇,四八〇	一一,二〇〇	九,八二〇	
九,九二一	九,四五〇	一〇,四〇〇	八,九五〇	一〇,四五〇	一〇,三五〇	九,五〇〇	一〇,〇〇〇	九,八八〇	一三,九六〇	七,九五〇	八,四〇〇	一〇,六〇〇	一一,三八〇	一〇,一九〇	
一〇,一〇九	九,五六〇	一〇,五六〇	九,〇四〇	一〇,八一〇	一〇,四四〇	九,三七〇	一〇,七六〇	一〇,六〇〇	一三,六四〇	八,一四〇	八,五〇〇	一〇,八〇〇	一一,二八〇	一〇,二七〇	
一〇,二九七	一〇,七二〇	一〇,七一〇	九,五〇〇	一一,〇〇〇	一〇,六九〇	九,九二〇	一〇,九六〇	一〇,三〇〇	一三,九六〇	八,四一〇	八,七九〇	一一,二〇〇	一一,六〇〇	一〇,四〇〇	
一〇,〇九九	九,七二〇	一〇,五八〇	九,一一〇	一〇,七七〇	一〇,四五〇	九,六四〇	一〇,六八〇	一〇,〇一〇	一三,七〇〇	八,三〇〇	八,八〇〇	一〇,九九〇	一一,三〇〇	一〇,四一〇	

二七

三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二
九,六二〇	八,四四〇	七,四一〇	七,四三〇	八,四〇〇	一一,四〇〇	一〇,九六〇	七,五〇〇	九,八六〇	一一,〇八〇	七,八八〇	一,四一〇	八,四五〇	八,八五〇	八,五三〇
六,六〇〇	八,三五〇	七,五一〇	七,〇三〇	八,二七〇	一一,一〇〇	一〇,九七〇	七,四五〇	九,七五〇	一一,九七〇	七,八七〇	一〇,一四〇	八,四五〇	八,七二〇	八,二四〇
九,六三〇	八,四〇〇	七,六一〇	七,五五〇	八,四八〇	一一,二〇〇	一一,一〇〇	七,六〇〇	一〇,〇〇〇	一一,四〇〇	八,一三〇	一〇,一〇〇	八,六五〇	九,〇〇〇	八,八五〇
一〇,〇〇〇	八,六〇〇	七,六二〇	七,五〇〇	八,五二〇	一一,八〇〇	一一,三五〇	七,五五〇	九,九七〇	一一,三二〇	五〇	一,〇六〇	八,九六〇	九,〇八〇	八,九四〇
一〇,二九〇	八,五八〇	七,八六〇	七,八〇〇	八,六八〇	一一,〇九〇	一一,六八〇	七,三四〇	一〇,三四〇	一一,六〇〇	八,四〇〇	一〇,三二〇	九,二二〇	九,三二〇	九,六〇〇
一〇,一六〇	八,五五〇	七,七五〇	七,六四〇	八,五一〇	一一,二六〇	一一,四〇〇	七,六二〇	一〇,一一〇	一一,四七〇	八,二〇〇	一〇,〇九〇	九,〇三〇	九,一一〇	九,三四〇

二八

備考 普通作業時ハ勞働十二時間十分ニシテ二回ノ體重調査平均ヲ記セリ  
以上ノ成績ニ依ル時ハ

A、繰絲成績

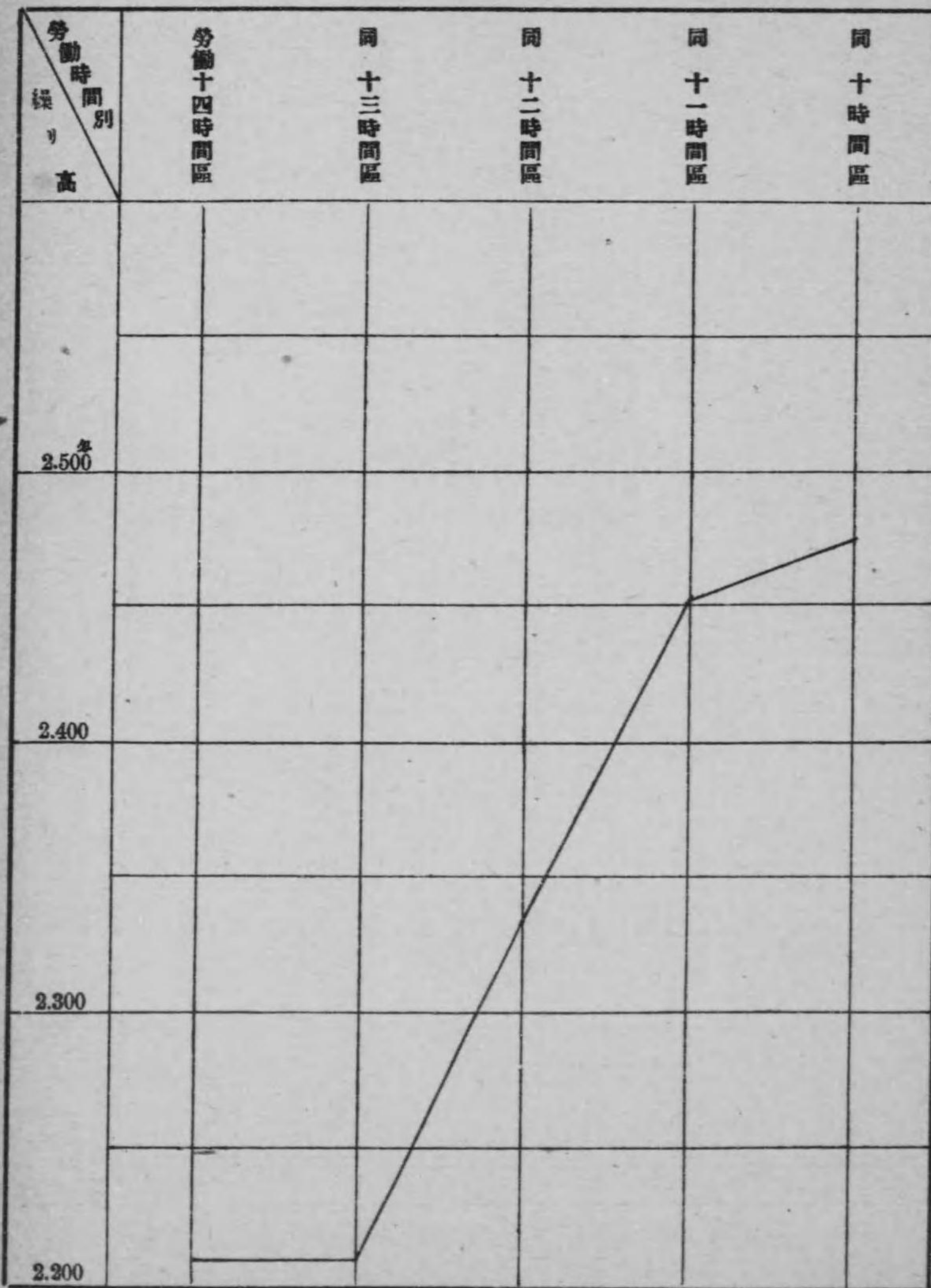
工程 勞働時間ハ増加ト共ニ増加セルモ之ヲ勞働時間ニ對スル工程割合ヨリ云フ時ハ勞働十四時間區ハ勞働十時間區ニ比シ一〇・七一%減少ヲ示セリ  
繰絲 勞働十四時間區ハ勞働十時間區ニ比シ一・四三%減少セリ  
織度 平均織度ニ就テハ甚シキ差異ヲ認メスト雖モ作業中ノ狀態ヨリ云フ時ハ勞働十四時間區及同十三時間區ハ身體ノ疲勞及夜業ノ結果織度ノ細太甚シク其不齊一ヲ來シ爲ニ揚返ニ際シ切斷多ク之レカ爲メ揚返工程進捗セス引テハ繰絲ノ減少ヲ來セリ  
品位 從テ劣等ナリ

B、體重調査成績

勞働十四時間區ハ普通作業ニ比シ體重一・〇三%ノ減少ヲ示シ以下勞働時間ノ減少スルニ從ヒ漸次増加シ勞働十一時間區ニ於テハ五・三二%ノ増加ヲ示セリ  
之等ハ單ニ體重上ニ現レタル成績ニ止マルト雖モ生徒一般ノ精神上及肉體上ニ於ケル疲勞ハ勞働十四時間區ニ於テハ最モ甚シク普通作業ニ於テハ到著見ル能ハサル狀態ナリキ

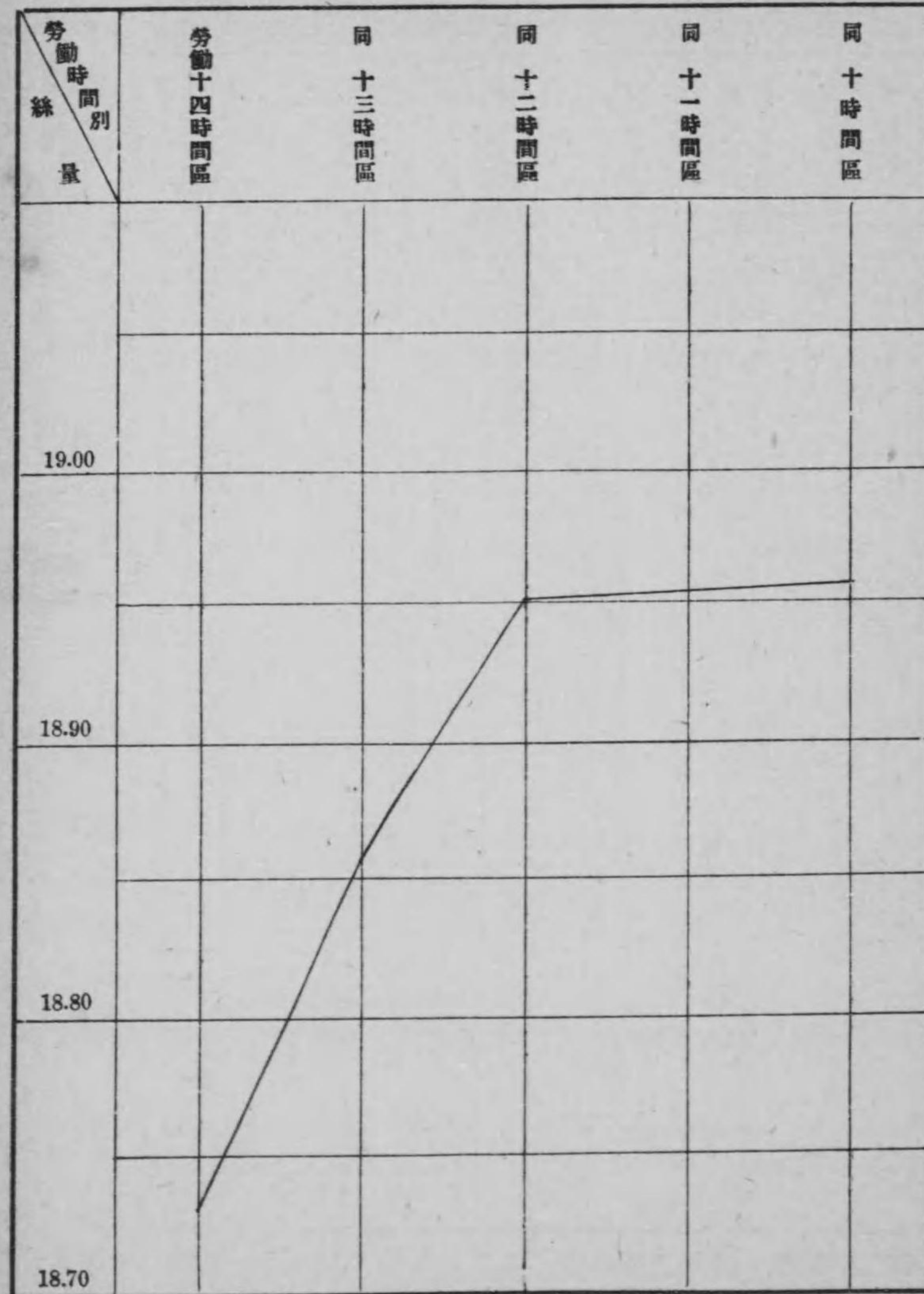
以上兩成績ヲ總合スルニ年齢十三歳、十四歳ノモノニ對シテ一日十四時間ノ勞働ハ永キニ失シ之レカ爲メ作業上ノ成績不良トナリ繰絲品位上ニ蒙ル損失甚シキハ勿論精神上及肉體上ニ及ス疲勞甚シク勞働十三時間モ猶其結果ハ良好ナリト稱シ能ハス依テ適當ナル勞働時間ハ其時期ニ依リ斟酌スルヲ可トスルモ一日ノ勞働十二時間半ヲ最長勞働時間トシ之ヲ越ユル時ハ反テ惡結果ヲ來スモ、如シ

一日ノ労働時間ノ長短ニ依ル線高増減圖



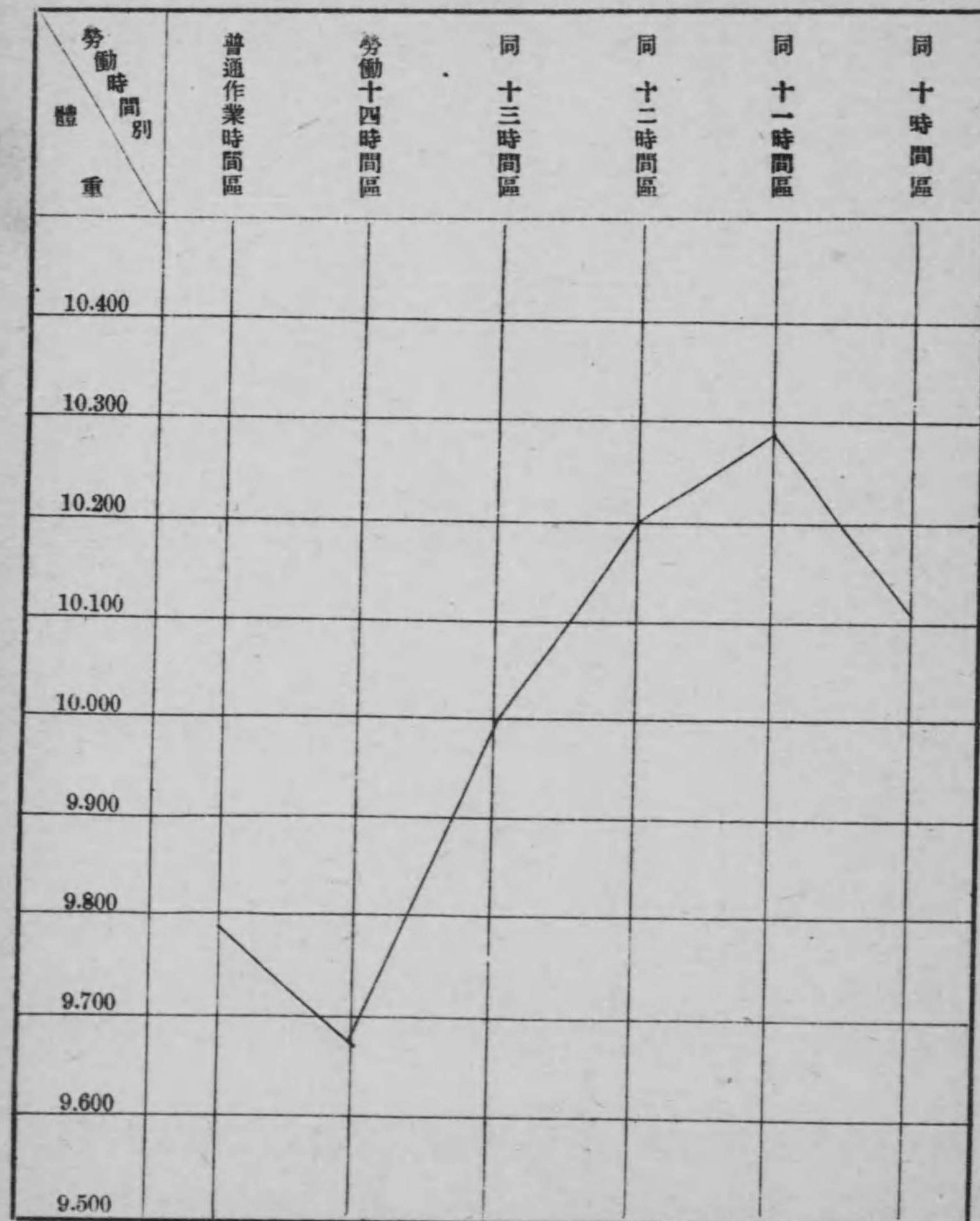
備考 線高ハ一日ノ労働時間十時間ニ換算セル五十名一日ノ線絲量ナリ

一日ノ労働時間ノ長短ニ依ル絲量増減圖



備考 絲量ハ乾繭六十斤ニ對スル五十名ノ平均量ナリ

一日ノ労働時間ノ長短ニ依ル體重増減圖



備考 一體重ハ五十名ノ平均重ナリ 普通作業時間ハ労働十二時間十分ナリ  
 二普通作業時間ニ比シ労働十三時間區ノ成績良好ナルハ時恰モ天高肥馬ノ候十月ニ遭遇セシ結果ナラン

(ハ) 精力誘發及絞出ニ關スル試驗

A、精力誘發試驗

一、試驗ノ方法

普通作業ト懸賞法施行作業ノ成績ヲ比較調査セリ

一、試驗成績

目次	項目	繰リ高(五十名)	絲量(乾繭六十匁)	織度	就業時間	試驗別	摘要
一		三、〇九三〇	一九七六	二二・四 <sup>デニール</sup>	一二・一〇 <sup>時分</sup>	普通作業	
二		二、四七七八	一九三五	二二・三	同	同	
三		二、六〇六四	一九四八	二二・〇	同	同	
四		二、八六一〇	一九三八	二一・八	同	同	
五		二、九四五六	一九五一	二一・七	同	同	
六		二、七五九七	一九四一	二二・五	同	同	
七		二、五八〇五	一九三〇	二二・〇	同	同	
八		二、八八五四	一九四九	二一・六	同	同	

以上十日間ノ成績ヲ平均セハ

作業別	項目	一日繰り高	絲	量	織	度	摘	要
九		二,五七八〇	一九二八	二二八	同	同	同	
一〇		三,〇二二七	一九四二	二二二	同	同	同	
一一		三,九五九六	一九九一	二一八	同	同	試驗施行	
一二			一九五四	二二一	同	同	同	
一三		三,二〇九四	一九四五	二二五	同	同	同	
一四		三,五二四二	一九四三	二二〇	同	同	同	
一五		三,五五六〇	一九七五	二二四	同	同	同	
一六		三,四九九八	一九五四	二二二	同	同	同	
一七		三,五二四二	一九八五	二二七	同	同	同	
一八		三,六七八五	一九七七	二二八	同	同	同	
一九		三,二九八〇	二一七六	二三三	同	同	同	
二〇		三,四五六二	一九六〇	二三〇	同	同	同	

普通作業時十日間ノ一日平均懸賞誘發試驗時十日間ノ一日平均

二,七八〇〇  
三,四九四一

一九四四  
一九六六

二二〇三  
二二〇七

次ニ大正四年度執行試驗成績ヲ示セハ

日次	項目	五十人平均一日繰り高	乾繭六十匁量	織度	一日繰り高	織時間	摘	要
一		八三四	一九四	二二八	二二〇	二二〇	試驗ヲ行ハサル時	
二		八五八	一九一	二二八	二二〇	二二〇	同	
三		八六二	一九六	二二七	二二四	二二〇	同	
四		八七八	一九九	二二八	二二四	二二〇	同	
五		八八三	二〇〇	二二七	二二〇	二二〇	能率誘發試驗	
六		八七八	一九八	二二七	二二五	二二〇	同	
七		九〇五	二〇三	二二八	二二五	二二〇	同	
八		九一一	二〇三	二二九	二二〇	二二〇	同	
九		八八二	二〇三	二三一	二二〇	二二〇	同	

一〇	九・二	二〇・三	一三・一	二二・五	同
一一	八・三	二〇・一	一三・〇	二二・〇	同
一二	八・八	二〇・〇	一三・二	二二・〇	同
一三	九・六	二〇・〇	一三・八	二二・五	同
一四	八・三	二〇・一	一三・六	二二・五	同

右二回ノ試験成績ニヨリ普通作業時ハ懸賞誘發試験成績トヲ比較對照スルニ

工程 懸賞誘發試験成績ハ二・五%乃至四・五%ノ進捗ヲ見ル

糸歩 同 ハ三・〇%乃至一・一三%増加セリ

品位 差異ナシ

B、精力絨出試験

一、試験ノ方法

一般監督ヲ嚴ニシテ生徒ヲ督勵誘導シ普通作業時ト比較調査セリ

一、試験成績

日次項目 五十名(一日) 繰高(一日) 繰量(乾繭) 六十匁) 織 度 就業時間 試験別 摘要

一	二七七八・〇	一九三七	二二・二	同	普通作業
二	二七二二・〇	一九四〇	二二・〇	同	同
三	二九二九・一	一九四五	二二・七	同	同
四	二七四九五	一八九五	二二・五	同	同
五	二三八五・五	一九二〇	二二・八	同	同
六	二四九九・八	一九三〇	二二・四	同	同
七	二五二二・一	一九二五	二二・二	同	同
八	二七三三・〇	一九二五	二二・四	同	同
九	二七七二・〇	一九三〇	二二・九	同	同
一〇	二七七八・〇	一九四〇	二二・八	同	同
一一	三一五五・四	一九五〇	二二・〇	同	試験施行
一二	三一二二・六	一九四〇	二二・九	同	同
一三	三〇七六・九	一九五〇	二二・四	同	同
一四	三〇五〇・〇	一九四五	二二・三	同	同
一五	三二六二・五	一九三五	二二・〇	同	同



一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二
八五七	八二〇	八五〇	七八二	七六七	六九二	六五二	六四九	六九〇	六一五	五九〇	六〇五	五七一	五七一	六四六
二〇二	二〇五	二〇五	二〇六	二〇二	一九七	一九九	一九八	一九二	一八六	一七八	一七五	一七一	一八〇	一八一
二一九	二二二	二二三	二三〇	二二一	二二一	二二〇	二一八	二二二	二二五	二二〇	二二二	二二五	二一九	二二四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	試驗 施行	試驗 開始	同	同	同	同	同	同	同	同	同

日次項目	一	均繰島一人	乾繭六十夕 量	織	度	一日繰絲時間	普通作業	以上各十日間ノ成績ヲ平均セハ						
								一日繰高	絲量	織度	摘	要		
次ニ大正四年度執行試驗成績ヲ示セハ	五九〇	一八九	二二二	二二二	二二二	二二〇	普通作業	二六	二七	二八	二九	三〇	三三三七七	三三三七七
								二六八四九	一九二八七	二二九	二二九	二二九	三二〇四五	三二〇四五
								三二二八二	一九五八二	同	同	同	二九九八〇	二九九八〇
										同	同	同	一九五〇	一九五〇
										同	同	同	一九七二	一九七二
										同	同	同	一九七五	一九七五
										同	同	同	一九五九	一九五九
										同	同	同	一九五三	一九五三

二七	八七九	二〇・二	二・二	同	同
一八	八三四	一九四	二・八	同	同
一九	八五八	一九二	二・〇	同	同
二〇	八六二	一九六	二・三	同	同
二二	八七八	一九九	二・二	同	同

右兩成績ニ就テ普通作業成績ト絞出試験成績トヲ比較對照スル時ハ

工程 絞出試験ハ三三・四九%乃至一六・一三%ノ進捗ヲ示セリ

品位 絞出試験ハ八・一%乃至一・二五%増加セリ

品位 差異ナシ

以上ノ成績ニ基ク時ハ工場ノ監督ヲ嚴ニシ職工ノ能率ヲ絞出シ又ハ懸賞方法ニ依リ能率ノ誘發ヲ行フ事ハ製絲經濟上最モ必要ナル事項ナリ

只茲ニ注意スヘキハ能率絞出シ又ハ懸賞誘發後ニ於テ急ニ監督ヲ緩ニシ又ハ誘發ヲ行ハサル時ハ再ヒ能率減退シ之レカ爲メ先ニ得タル良成績ハ相殺セラレ工場主トシテハ得ル處少ナキカ如キ傾向アリ故ニ當事者ハ此ノ點ニ留意シ先ニ得タル良成績ヲ永續セシムルノ方法ヲ講セサルヘカラス

然シ養成中ノ職工ニアリテハ各自ノ技術ヲ進捗セシムル政策トシテハ右二方法ハ唯一ノ良法ト稱スルモ過言ニアラスト信ス

其二 蠶繭膠質變化試驗

一、試驗ノ目的

乾燥ヲ行フニ當リ先ツ蒸殺ヲ行ヒ後直チニ乾燥ヲ行フ時ハ調節ヲ少クシ生絲ノ品位ヲ良好ナラシメ製絲經濟上得ル處多シト稱スルモノアリ故ニ其ノ蒸殺時間ノ適度及其他製絲經濟上ニ及ス影響ヲ知ラントス

一、試驗ノ方法

蒸殺五分間、蒸殺十分間ヲ施シタル繭ヲ乾燥シタルモノニシテ各生絲百二十本ヲ繰絲シ同種ノ繭ニ普通乾燥ヲ施シタルモノニシテ生絲二百四十本ヲ繰絲シ解舒ノ難易其他製絲經濟ニ關スル諸點ヲ比較調査セリ

尙右各種乾燥繭百匁宛ヲ東京高等蠶絲學校ニ送附シ理化學的試驗ヲ委託セリ

一、試驗成績

A、繰絲試驗成績

別紙試驗成績ノ通り

左ノ成績ニ依テ見ル時ハ

工程 蒸殺五分間ノモノ 〇・四六% 蒸殺十分間ノモノ 一・八二%ノ進捗ヲ見ル  
 糸歩 同 〇・二四% 同 〇・八二%ノ減少ヲ見ル  
 屑物 同 〇・一一% 同 〇・〇七%少シ  
 減耗量 同 〇・〇八% 同 二・四九%多シ  
 類節 蒸殺五分時ノモノ最モ少ク十分時ノモノ之ニ亞キ普通乾ノモノハ殊ニ小類多シ  
 強伸力 大差ナシ

膠質變化試驗絲試驗成績表

種別	目標	乾繭重量	繭類數	煮繭回数	時間	純線絲時間	生絲重量	緒絲量	繭視量	揚繭個數	殘繭個數	合計重量	
													等級
普通	乾	三、一〇一・八	—	二六七	—	二、三〇〇	一、五八二	二、四四〇	二、七六〇	二、三二	一、八九	一、三八	二、七五〇
蒸殺五分區		三、一〇一・九	—	二六七	—	三、〇〇〇	一、五八二	二、三二一	二、七六〇	一、九六	二、三三	一、四三	二、七九一
蒸殺十分區		三、一〇一・九	—	二六八	—	四、五〇〇	一、五八二	二、二五二	二、三六〇	二、二八	二、三〇	一、五〇	二、七九一

種別	目標	繭重量	減耗量	等級	最大	最細	平均	小類	合計	最多	最少	平均	最多	最少	平均
普通	乾	一、四六一・〇	二、三六九	—	一、三二五	九、五二八	九、六	二、四四八	二、五四四	五、八〇	三、八〇	四、三三四	一、三〇	八七	一、二四
蒸殺五分區		一、四六四・〇	二、三七二	—	一、四二二	九、七二五	六、〇	一、九六〇	二、〇二〇	五、五〇	三、五〇	四、二〇	二、二八	八五	一、二二
蒸殺十分區		一、四六四・〇	二、四二八	—	一、四二二	九、〇二八	七、六	二、三二五	二、三九二	五、七〇	三、三〇	四、二〇	二、二五	八三	一、二〇

B、理化學的試驗成績(寫)

試驗繭ヲ内外層ニ分チ其ノ各ヲ風乾量ニテ二・五瓦宛ヲ取り各々ニ二〇〇cc宛ノ蒸溜水ヲ加  
 (一〇〇度(攝氏)ニテ一時間湯煎トナシ其ノ溶解量ヲ測定シタルニ次ノ如シ

種別	目標	外層	內層
甲區		〇・〇六九〇	〇・〇三六九
乙區		〇・〇五九八	〇・〇三五二
丙區		〇・〇五一八	〇・〇三六一

備考 甲區ハ普通乾區、乙區ハ蒸殺五分間區、丙區ハ蒸殺十分間區ナリ以下同シ  
 右各區供試繭ノ乾物量ハ次ノ如シ

右乾物歩合ヨリ前記溶解量ノ乾物繭層ニ・五瓦宛ヲ取リタル場合ニ換算スレハ次ノ如シ

	外層	内層
甲 區	八九・六九	八八・一九
乙 區	八七・三三	八七・九三
丙 區	八七・八〇	八八・二五
外層		内層
甲 區	〇〇・七七	〇〇・四一八
乙 區	〇〇・六八五	〇〇・四〇一
丙 區	〇〇・五九〇	〇〇・四〇九

右成績ニ依レハ繭層ノ溶解量ハ甲乙丙順次少シ之レ「セリシン」ノ凝固程度ニ差異ヲ示セルモノニシテ即チ此成績ニ基クトキハ甲區最モ速ニ且ツ解舒モ可ナルヘク乙丙順次之レニ亞クナルヘシ以上ノ成績ニ基ク時ハ理化學的試験成績ニ於テハ蒸殺繭ハ普通繭ニ比シ「セリシン」ノ凝固程度強ク解舒不良ナリトノ推論ニ達セリ

繰絲試験成績ニ於テハ反テ工程稍々進捗セル成績ヲ示セリ此ノ點ニアリテハ兩成績相容レサルカ如シト雖モ要スルニ蒸殺後乾燥處理ヲ施スモ徒ラニ手數ヲ多クシ之レカ爲メ得ル處少ク製絲經濟

上ヨリ見ル時ハ價值ナキ處理方法ト云ハサルヘカラス

### 其三 蛹汁ト解舒トノ關係試験

#### 一、試験ノ目的

煮繭ニ蛹汁混スレハ煮ヘ方良好、繰リ湯ニ蛹汁ヲ混入スレハ解舒滑カナルモノノ如シ果シテ然ラハ其適度ヲ知ラントス

#### 一、試験ノ方法

一定ノ蛹汁ヲ造リ之ヲ煮繭及繰絲湯中ニ左ノ割合ニ依リ混入シ其成績ヲ比較調査セリ

- 標準 區 煮繭湯共ニ蛹汁ヲ混入セス普通浮繰繰絲法ニ依レルモノ
- 蛹油一〇%區 煮繭湯及繰絲湯ニ蛹汁一〇%ヲ混入繰絲セルモノ
- 蛹汁二〇%區 煮繭湯及繰絲湯ニ蛹汁二〇%ヲ混入繰絲セルモノ
- 蛹汁三〇%區 煮繭湯及繰絲湯中ニ蛹汁三〇%ヲ混入繰絲セルモノ

以上各區共生絲二十本宛（一本ノ原繭重量乾繭六十匁）ヲ繰絲シ其ノ成績ヲ比較對照セリ

#### 一、試験成績別紙試験成績表ニ依ル

#### 蛹汁ト解舒トノ關係試験繰絲試験成績表

種別	標目	乾繭重量	類數	煮繭		純線絲		層		揚繭		殘繭物		合計重量
				回数	時間	時間	重量	繭量	繭量	個數	重量	個數	重量	
標準區	繭汁一〇%區	1100.0	1	100	21.0	5.6	38.3	4.0	5	5.3	4.3	1.4	114.6	
繭汁二〇%區	繭汁二〇%區	1100.0	1	96	21.0	6.2	38.1	4.0	5	6.5	3.7	1.5	115.7	
繭汁三〇%區	繭汁三〇%區	1100.0	1	100	21.0	6.4	38.4	4.0	5	4.7	4.4	1.2	112.1	
標準區	繭汁一〇%區	544.0	16.1	114.2	9.2	10.4	33.2	3.6	5.0	4.8	2.2	8.2	103.1	
繭汁二〇%區	繭汁二〇%區	544.0	19.9	113.2	9.8	9.6	32.2	3.6	5.0	3.9	2.5	8.5	115.1	
繭汁三〇%區	繭汁三〇%區	544.0	15.9	114.8	9.2	9.6	33.2	3.6	5.0	4.8	2.2	8.2	103.1	

右成績ニ基ク時ハ

工程 繭汁一〇%區三・八二%繭汁二〇%區一・七九%進捗シ繭汁三〇%一・一三%遲滯セリ

絲歩 繭汁一〇%區ハ増減ナク同二〇%區ハ〇・七二%同三〇%區ハ〇・一九%増加セリ  
 層物 繭汁ノ%ヲ増加スルニ從ヒ増加セリ  
 減耗量 區汁ノ%ハ増加スルニ從ヒ減少セリ  
 類節 標準區最モ多ク繭汁二〇%區最モ少シ  
 強伸力 強力ハ標準區最モ多ク伸度ハ繭汁三〇%區最モ多ク以下繭汁ノ%減少スルニ從ヒ減少シ標準區ハ最モ少シ

色澤 繭汁一〇%區ハ標準區ニ比シ大ナル差異ナキモ繭汁二〇%以上ニアリテハ到底標準區ノモノト混同スル事能ハス

以上ノ成績ニヨレハ煮繭及繰絲湯中ニ繭汁ヲ混入スル時ハ其ノ割合二〇%以内ナル時ハ工程稍進捗シ伸度モ亦増加スルノ傾アリト雖モ之レカ爲メ生絲ノ色澤ヲ害シ之ヲ製絲經濟上ヨリ打算スル時ハ利得甚タ少ク實行スヘキ良法ナリト稱シ難シ

### 其四 伏煮試驗

#### 一、試驗ノ目的

煮繭ニ際シ金網ヲ以テ煮繭湯中ニ繭ヲ沈メ煮繭スル時ハ絲量多ク解舒モ亦良好ナルカ如シ故ニ

之レカ試験ヲ行ヒ普通煮繭法トノ比較ヲ行ハントス

一、試験ノ方法

普通煮繭法ニヨルモノ伏煮々繭法ニヨルモノ各四括宛ヲ繰繰シ其ノ成績ヲ比較對照セリ

一、試験成績

別紙試験成績表ノ通り

伏煮試験繰繰試験成績表

種別	標	乾繭		煮繭		純繰繰生繭		繭		揚繭		殘繭		合計
		重量	顆數	回数	時間	時間	重量	緒繰繰量	繭視量	個數	重量	個數	重量	
普通煮繭區	七二〇〇	七二〇〇	—	五七六	二〇〇	三八・四二	二二七〇	四四〇	二五六〇	三〇四	四一六	一六〇	二二八	七五〇・四
伏煮區	七二〇〇	—	—	五七八	一五〇	三三・四〇	二二七二	四三〇	二五六〇	三三〇	四六四	一七八	一六〇	七五〇・四
種別	標	蛹重量	減耗量	色澤	織	度	類	節	強	力	伸	度		
普通煮繭區	三三三〇	八五九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伏煮區	三三三〇	八七四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

右成績ニ基ク時ハ

工程 普通煮繭區〇・〇七%進捗セリ

絲歩 伏煮區〇・〇四%増加セリ

屑物 増減ナシ

減耗量 伏煮區一・七六%増加セリ

類節 小類ハ伏煮區ニ多ク大類ハ普通煮繭區多シ

強伸力 強力伸度何レモ伏煮區多シ

右成績ニ基クハ伏煮法ハ絲歩稍増加スル傾アレトモ類節多ク製繰繰經濟上ヨリ見ル時ハ稱贊スヘキ方法ト云フ能ハス

其五 浸湯浸水煮繭試験

一、試験ノ目的

繭層ノ内部ニ水若シクハ湯ヲ含マシメ煮繰繰スル時ハ普通製繰繰セルモノニ比シ其ノ成績良好ナルカ如シ故ニ其ノ一方法トシテ熱湯中ニ繭ヲ浸スコト數秒ノ後之ヲ引出シ直ニ微温湯ニ浸スルコト數秒ニシテ繭層内ニ水若シクハ湯ヲ浸入セシメタル後製繰繰ヲ行ヒ普通處理法トノ得失ヲ知ラ

ントス

一、試験ノ方法

熱湯、微温湯、冷水ノ三者ニ就キ六種組合セテ行ヒ之ニ依リ各種ニ就キ煮繭前處理法ヲ行ヒ以テ繭層内ニ水若シクハ湯ヲ浸入セシメ煮繭セルモノ普通煮繭法ニ依ルモノ各生絲六十本宛ヲ繰絲シ其ノ成績ヲ比較セリ

其ノ組合セ處理法次ノ如シ

標準區

浸湯浸水ノ處理ヲ施ササルモノ

第一區

イ、華氏二〇八度ノ熱湯ニ浸スコト八秒間

第二區

ロ、華氏一〇〇度ノ微温湯ニ浸スコト四秒間

第三區

イ、華氏二〇八度ノ熱湯ニ浸スコト八秒間

第四區

ロ、冷水ニ浸スコト四秒間(華氏六〇度以下同シ)

第五區

イ、華氏一〇〇度ノ微温湯ニ浸スコト三秒間

第六區

ロ、華氏二〇八度ノ熱湯ニ浸スコト七秒間

第七區

ハ、華氏一〇〇度ノ微温湯ニ浸スコト四秒間

第八區

イ、冷水ニ浸スコト三秒間

第九區

ロ、華氏二〇八度ノ熱湯ニ浸スコト七秒間

第十區

ハ、冷水ニ浸スコト三秒間

第十一區

イ、冷水ニ浸スコト三秒間

第十二區

ロ、華氏二〇八度ノ熱湯ニ浸スコト七秒間

第十三區

ハ、華氏一〇〇度ノ微温湯ニ浸スコト四秒間

第十四區

イ、華氏一〇〇度ノ微温湯ニ浸スコト三秒間

第十五區

ロ、華氏二〇八度ノ熱湯ニ浸スコト四秒間

第十六區

ハ、冷水ニ浸スコト四秒間

第十七區

イ、冷水ニ浸スコト四秒間

一、試験成績

別紙試験成績表ノ通り

浸湯浸水煮繭試験繰絲試験成績表

標準區	種別標		煮繭		純繰絲		生絲		層		者		合計重量
	乾繭重量	繭數	回数	時間	時間	重量	緒絲量	蛹視量	個數	重量	個數	重量	
三六〇.〇 <sub>分</sub>	—	—	三四	二〇〇 <sub>分</sub>	二四〇 <sub>時</sub>	二二一.一 <sub>分</sub>	二八〇 <sub>分</sub>	二二〇 <sub>分</sub>	二九六	二四八	七三	四八	三八二.六

種別	標準	色澤		最大	最細	平均	大額	小額	合計	強		伸	
		等級	澤							最多	最少	平均	最多
第一區	三六〇〇	二八八	一・三〇	二二〇	二二・二	一一三〇	二三八〇	二〇〇	二六四	二五二	四〇	二〇	一八五二
第二區	三六〇〇	二九二	一・三〇	二二〇	二二・四	一一四〇	二四〇〇	二二二	二二二	二八〇	三三	一六	三五六
第三區	三六〇〇	二八八	一・三〇	二二〇	二二・七	一一〇〇	二二八〇	二〇〇	二〇〇	二二六	二〇	一三	二五八八
第四區	三六〇〇	二九二	一・三〇	二二〇	二二・四	一一六〇	二二八〇	二二八	二四八	二七二	九二	六〇	二八九二
第五區	三六〇〇	二八四	一・三〇	二二〇	二二・四	一一三〇	二四二〇	二四〇	二四〇	二六八	六四	三二	二八八〇
第六區	三六〇〇	一八〇	一・三〇	二二〇	二二・七	一一二〇	二四〇〇	二二〇	二六四	二六八	二二	七六	二八〇四
標準區	一五六六	五六四	一・四二	九二	二二・二	一〇四	三〇七二	三二七六	五三三	三八二	五〇・一	一一〇	八三
第一區	一五八〇	五四八	一・四二	九〇	二二・〇	三二	二四〇〇	二四三二	五四四	四二〇	五〇・七	一一五	八五
第二區	一五六〇	三三四	一・四〇	九〇	二二・一	四四	一五七六	一六二〇	五四〇	三八〇	五〇・〇	一一〇	八〇
第三區	一五七〇	五九二	一・四二	九五	二二・九	四〇	一六九六	一七三六	五五〇	四〇〇	五〇・一	一一〇	八五
第四區	一五七〇	五三八	一・四五	九〇	二二・二	七六	二二四四	三二〇〇	五〇〇	三八〇	四九・〇	一一〇	七〇
第五區	一五七〇	二八〇	一・四二	九五	二二・三	三六	一七五六	七九二	一〇〇〇	四〇〇	五〇・〇	一一〇	七五
第六區	一三五八〇	一三九六	一・四二	九五	二二・四	二四	一九七九	二〇〇〇	四八〇	三八〇	四九・〇	一一〇	七六

右成績ニ基キ之ヲ標準區ト比較對照スル時ハ

工程 第一區ハ一三・七六%進捗シ第六區之ニ亞キ以下第五區、第三區、第四區、第

二區ノ順序ヲ示シ標準區最モ劣等ナリ

絲步 第一區ハ一・四三%増加シ第二區、第三區、第六區、第五區之レニ亞キ第四區

標準區最モ少シ

屑物 第四區ハ一・九九%多ク第五區之ニ亞キ以下第三區、第二區第一區標準區第六

區ノ順序ヲ示セリ

減耗量 第三區ハ四・六二%増加シ第六區之レニ亞キ以下標準區第二區、第一區、第四

區ノ順序ヲ示シ第五區最モ少シ

類節 第二區最モ少ク第四區最モ多シ

強伸力 強力伸度何レモ第三區最モ多ク第一區之ニ亞キ第四區最モ少シ

以上ノ成績ヲ總括スル時ハ煮繭前浸湯浸水處理ヲ施ス時ハ練絲工程進捗シ殊ニ浸湯處理法(第一

區)ハ絲歩ヲ増加シ之ヲ製絲經濟上ヨリ見ル時ハ其ノ利得多ク當業者ノ一層試驗研究セラレヘキ

價値アル良法ナリト信ス

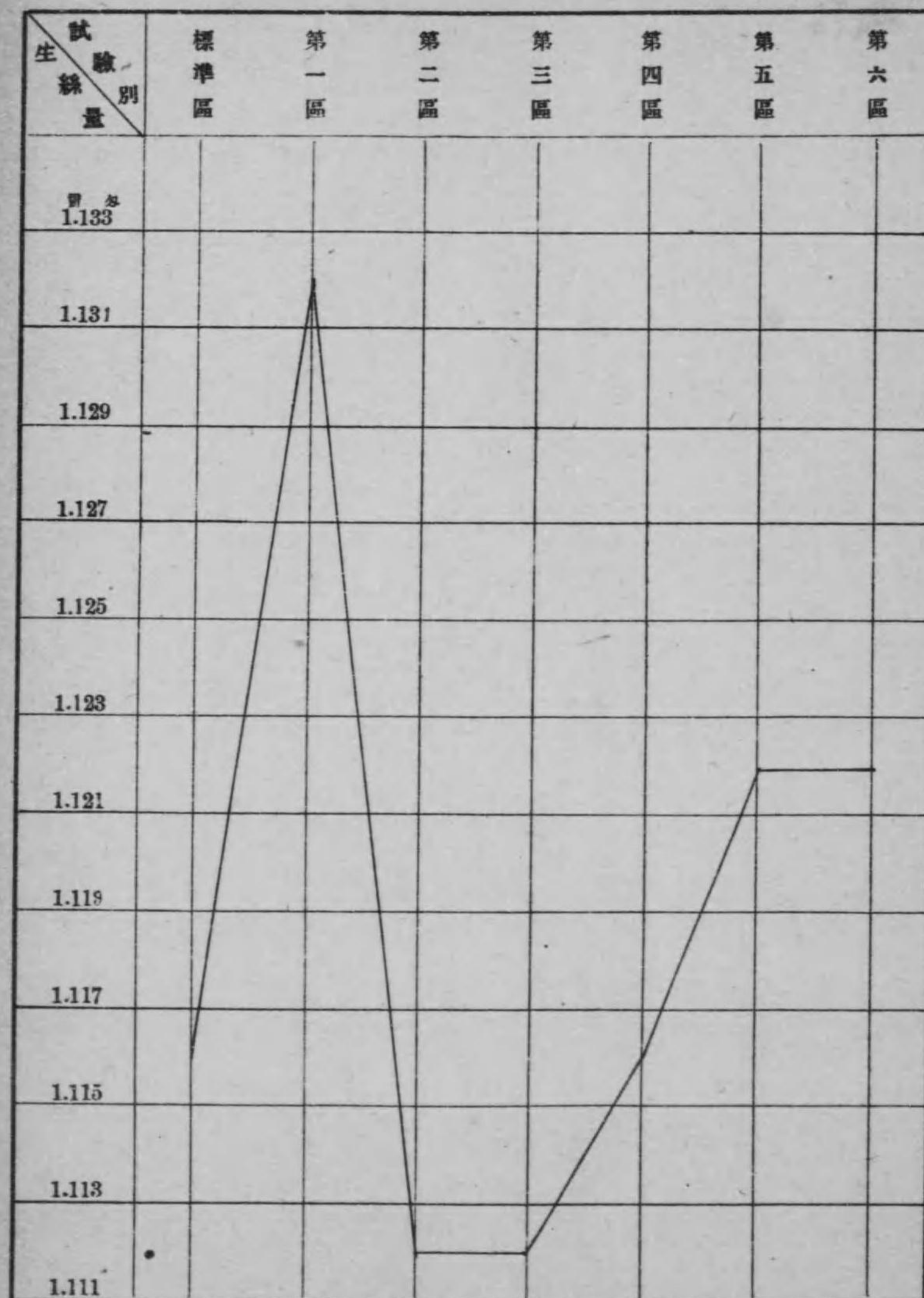


浸湯浸水蕒繭試驗 繰絲時間變化ノ圖



備考 繰絲時間ハ乾燥繭三貫六百々ヲ繰絲セル時間ナリ

浸湯浸水煮繭試驗 生絲量變化之圖



備考 生絲量ハ乾燥繭三貫六百匁ニ對スルモノナリ

大正六年度製絲經濟試驗成績

# 大正六年度執行製絲經濟試驗成績

## 能率試驗

### 一、試驗目的

製絲職工ノ素質即チ年齡、體格、家庭ノ職業、教育程度、學業成績、趣好學科等カ職工能率ト如何ナル關係ヲ有スルカハ製絲經濟上最モ必要ナル事項ナリ故ニ此ノ關係ヲ研究セントスルニ在リ

### 二、試驗方法

岐阜縣製絲同業組合立製絲講習所ニ於テ講習生ニ就キ年齡、體格、家庭ノ職業、教育程度、學業成績、趣好學科等ノ調査ヲ行ヒ之等ノ事項ト其ノ繰絲成績トノ比較調査ヲ行ヘリ

### 一、試驗成績

#### イ、年齡

十八九歲、十七歲、十六歲、十五歲、十四歲ニ分チ調査セリ

項目	年	齡	人数	線 量	平均一總線量	織 度
備考 織度ハ十二デニール目的ナリ以下同ジ 次ニ大正四五兩年度執行試験成績ヲ示セハ左ノ如シ (大正四年度)	十八九歲	(三人)	平均	10,330.00	1833	2150
	十七歲	(六人)	平均	10,630.00	1820	2106
	十六歲	(六人)	平均	10,175.50	1826	2110
	十五歲	(十一人)	平均	9,891.10	1832	2194
	十四歲	(廿五人)	平均	9,850.20	1856	2182

項目	年	齡	人数	線 量	平均一總線量	織 度
(大正五年度)	十七歲	(五人)	平均	8,246.20	1972	2300
	十六歲	(十二人)	平均	7,526.60	1978	2270
	十五歲	(十三人)	平均	7,325.50	1973	2300
	十四歲	(二十人)	平均	6,998.90	1878	2280

項目	身長	線 量	平均一總線量	織 度
右成績ニ依レハ線歩品位ハ年齢ニ依リテ其ノ優劣ヲ定メ難キモ工程ハ年齢ノ多キモノ成績稍良好ナル傾向アリ ロ、體 格 身長體量ノ二項目ニ就キ調査ス 一、身長	四尺八寸上 (二人)	6,466.90	1897	2220
	四尺六寸上 (十六人)	6,773.90	1927	2198
	四尺四寸上 (二十七人)	6,627.80	1894	2220
	四尺四寸下 (五人)	6,781.20	1907	2232

項目	身長	線 量	平均一總線量	織 度
次ニ大正四五兩年度執行試験成績ヲ示セハ左ノ如シ	四尺八寸上 (二人)	10,717.50	1834	2237
	四尺六寸上 (十六人)	10,437.10	1835	2201
	四尺四寸上 (二十七人)	9,975.40	1837	2181
	四尺四寸下 (五人)	9,410.00	1876	2183

(大正四年度)

項目	身長	四尺八寸(十三人) 平均	四尺六寸(十四人) 平均	四尺四寸(十三人) 平均	四尺四寸(十人) 平均
線	線	七六四五〇	七八〇三〇	六八八六〇	六八四五七〇
平均一総線量	平均一総線量	一九七六	一九七一	一九七七	一九七八
織	織	二八〇	二六〇	二八〇	三〇〇

(大正五年度)

項目	身長	四尺八寸(九人) 平均	四尺六寸(二十人) 平均	四尺四寸(十七人) 平均	四尺四寸(四人) 平均
線	線	六八七二五〇	六六四三六〇	六七四六〇	六七九九〇
平均一総線量	平均一総線量	一九一八	一九〇七	一九一〇	一九〇四
織	織	二四〇	二二〇	二〇〇	二一九〇

二、體量

十二貫目以上、十貫目以上、八貫目以上、八貫目以下ニ分チ調査セリ

大正四五年度執行試験成績ヲ示セハ  
(大正四年度)

項目	體量	十二貫目以上(二人) 平均	十貫目以上(十六人) 平均	八貫目以上(二十二) 平均	八貫目以下(七人) 平均
線	線	一〇、七二五〇	一〇、四〇一五〇	一〇、〇九七〇〇	九五〇五七〇
平均一総線量	平均一総線量	一八七六	一八一九	一八三六	一八九〇
織	織	二二九	二九四	二七六	二二〇

(大正五年度)

項目	體量	十二貫目以上(六人) 平均	十貫目以上(二十人) 平均	八貫目以上(二十一) 平均	七貫九百目以下(三人) 平均
線	線	七、〇五〇九〇	六、七二二〇	六、五四九九〇	七、〇七〇八〇
平均一総線量	平均一総線量	七、九二七五〇	七、三二一七〇	六、八四二一〇	七、〇九〇九〇
織	織	一九七一	一九七六	一九七九	一九七一
		二二九	二八〇	二三〇〇	二二八〇

平均一認絲量	一八七六	一九二六	一九〇二	一九一六
織度	二二・〇	二二・〇	二二・五	二二・九

右成績ニ依ルトキハ工程ハ體格ノ優良ナルモノ勝ルト雖モ絲歩及織度ハ其ノ優劣ヲ定メ難キモノ、如シ

ハ、家庭ノ職業  
農業、商業、工業、雜業ニ分テ調査セリ

職業項目	人員		人員		人員	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
農業	一四	一〇	二九	二二	二	二
商業	二	三	三	三	四	四
工業	一	三	六〇	三三	一	一〇
雜業	一	一	三三	三三	一	三三
パーセント	四一〇	二九五	三〇〇	四四五	二九五	四四五

備考 雜業トハ農業商業工業ニ屬セサルモノヲ含ム  
次ニ大正四五年度執行試驗成績ヲ示セハ

(大正四年度)

職業項目	人員		人員		人員	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
農業	二	九	二	五	一	八
商業	一	五	二	三	一	六
工業	一	二	一	二	一	一
雜業	二	一	三	一	一	一
パーセント	三七一	三〇	五	三	六	五〇

(大正五年度)

職業項目	人員		人員		人員	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
農業	八	二	一	三	一	二
商業	一	三	一	三	一	六
工業	四	一	一	一	一	一
雜業	三	一	一	一	一	一
パーセント	二七	三六	二〇	三〇	二〇	三六

右成績ニ依ルトキハ農業、工業及其ノ他雜業ノ子女ハ一般ニ成績良好ナルモ商家子女ハ概シテ成

績不良ナルモノ多キヲ示セリ

二、教育程度

高等小學校卒業、高等科一學年修業、尋常小學校卒業ノ三者ニ分チ調査セリ

項目	教育程度	高等小學校卒業 (十人平均)	高等科一學年修業 (六人平均)	尋常小學校卒業 (三十三人平均)
線	線	10,336.00	10,133.50	9,994.00
平均一總線量	平均一總線量	18,532	18,332	18,339
織	織	2,275	2,268	2,276

次ニ大正四五年度執行試験成績ヲ示セハ

(大正四年度)

項目	教育程度	高等小學校卒業 (十人平均)	尋常小學校卒業 (四十人平均)
線	線	7,537.30	7,243.60
平均一總線量	平均一總線量	19,755	19,766
織	織	2,390	2,290

(大正五年度)

項目	教育程度	高等小學校卒業 (五人平均)	高等科一學年修業 (十一人平均)	尋常小學校卒業 (三十四人平均)
線	線	6,425.10	6,555.70	6,822.80
平均一總線量	平均一總線量	18,955	19,006	19,204
織	織	2,230	2,200	2,200

右成績ニ依ルトキハ大正五年度ノ試験成績ハ教育程度ニ無關係ノ成績ヲ示セルモ大正六年度試験ハ大正四年度ノ夫ト相似シテ教育程度ニ比例シテ線線成績良好ナルモノ、如シ

ホ、學業成績

、學業平均點數九點以上八點、七點、六點以下 (各出身小學校ノ成績ニ依ル)ノ四項ニ分チ調査セリ

項目	學業成績	九點以上 (二十人平均)	八點 (十三人平均)	七點 (十二人平均)	六點以下 (三人平均)
線	線	10,110.50	10,136.50	9,930.00	9,750.50



平均一認絲量	一八六三
織度	二二〇二
平均一認絲量	一八三八
織度	二二七六
平均一認絲量	一八四八
織度	二二八二
平均一認絲量	一八二三
織度	二二九九

次ニ大正四五年度執行試験成績ヲ示セハ  
(大正四年度)

項目	學業成績	九點以上(十一人)	八點(十三人)	七點(十八人)	六點以下(八人)
平均一認絲量	七三三六・〇〇	七四二九〇	七三九六・〇〇	七〇二七八〇	
織度	一九八〇	一九七七	二二八〇	一九六五	
平均一認絲量	一三・〇〇	二二・八〇	二二・八〇	二二・九〇	
項目	學業成績	九點以上(二十三)	八點(十三人)	七點(九人)	六點以下(三人)
平均一認絲量	六七四五・四〇	六八九四七〇	六七六六・九〇	五六七五・〇〇	
織度	一九〇六	一九一六	一九二〇	一八八七	

(大正五年度)

織度	二二・〇〇
織度	一一・九〇
織度	一一・一〇
織度	一三・〇〇

右成績ニ依ルトキハ學業ノ成績ニ比例シテ技術ノ成績良好ナルカ如シ  
、趣好學科  
手工及、裁縫、算術及理科、修身及國語、體操及唱歌、特有學科無キ者ノ五項ニ分チ比較調  
査セリ

項目	趣好學科	手工及裁縫(十二人)	算術及理科(五人)	修身及國語(十八人)	體操及唱歌(五人)	特有學科無キ者(五人)
平均一認絲量	一〇、四一〇・〇〇	一〇、三八五・〇〇	九、九五五・八〇	九、六七二・〇〇	九、五五五・〇〇	九、五五五・〇〇
織度	一八四七	一八四八	一八五二	一八四六	一八三二	一八三二
平均一認絲量	一一、〇〇	一一・一一	二二・七六	二二・七六	二二・七七	二二・九一

次ニ大正四五年度執行試験成績ヲ示セハ  
(大正四年度)

項目	趣好學科	手工及裁縫(十七人)	算術及理科(六人)	修身及國語(十人)	體操及唱歌(七人)	特有學科無キ者(十人)
平均一認絲量	七、四〇一・六〇	七、〇九〇・一〇	七、五〇四・三〇	七、五一一・一〇	六、九二五・七〇	
織度	七、四〇一・六〇	七、〇九〇・一〇	七、五〇四・三〇	七、五一一・一〇	六、九二五・七〇	

平均一総糸量  
織度

一九七七  
二一九〇

一九七五  
二二一〇

一九七八  
二二九〇

一九七三  
二二八〇

一九七一  
二二八〇

(大正五年度)

項目	趣好學科	手工及裁縫	算術及理科	修身及國語	體操及唱歌	特有學科(ナキ者)
緑糸量		六、六八〇・八〇	六、六六三・三〇	六、六八二・三〇	六、六五七・〇〇	六、六〇二・〇〇
平均一総糸量		一九二二	一九〇九	一九一五	一九〇四	一九〇七
織度		二二二〇	二二〇〇	二二〇〇	二二四〇	二三〇〇

右成績ニ依ルトキハ大正四五年度試験成績ハ修身及國語或ハ體操及唱歌ノ趣好者、工程或ハ緑糸量ニ於テ良好ノ成績ヲ示セルモ大正六年度試験ハ工程糸量共ニ算術及理科、手工及裁縫ノ趣好者良好ニシテ修身及國語ノ趣好者ハ糸量ニ於テ最優ノ成績ヲ示セリ要スルニ手工及裁縫、算術及理科、修身及國語等ノ趣好者ハ其ノ他ニ比シ何レモ成績良好ニシテ特有學科無キ者ハ其ノ成績劣ルモノ、如シ

以上ノ成績ヲ總括スルトキハ養成中ノ工女ニ在リテハ

一、年齢ト操絲技術ハ餘リ年少ノ者ニ比シ相當年齢ノ者優良ナルノ傾向アリ

二、體格優良ナル者ハ工程進捗スト雖モ糸歩品位等ニ就キテハ其ノ優劣ヲ定メ難シ

三、農業、工業其ノ他雜業ニ屬スル者ノ子女ハ一般ニ成績良好ナルモ商家ノ子女ハ概シテ成績不良ナリ

四、教育程度ノ高低ニ從ヒテ操絲技術ノ優劣ニ關係アルモノ、如シ

五、學業成績七點以上ノ者(即チ成績尋常以上ノ者)ハ一般ニ成績良好ニシテ六點以下ノ者ハ技術不良ニシテ成績劣等ナリ

六、手工及裁縫、算術及理科、修身及國語ノ趣好者ハ其ノ他ニ比シテ成績良好ニシテ特有學科無キ者ハ其ノ成績劣等ナリ

### 一、一日中毎時間ニ於ケル操絲作業成績試験

#### 一、試験ノ目的

一日中ノ毎時間ニ於ケル操絲作業成績ニ差アリ且ツ氣候ノ寒暑ノ異ナルニ從ヒテ其ノ時間同シカラサルモノ、如シ依ツテ左ノ方法ニ依リ掲題ノ試験ヲ行ヒ一日中適當ナル休憩時間ヲ知ルニ在リ

#### 一、試験ノ方法

八月、十二月中各一回五人ノ繰絲工女五日間宛毎日毎時間ノ繰絲成績ヲ調査ス

A、八月中繰絲試驗

五人ノ繰絲工女ニ就キ自八月二日至八月六日五日間毎日自午前四時至午後八時十六時間毎時間ノ繰絲成績ヲ調査ス

第三時間目第九時間目及第十四時間目ニ食事時間トシテ各二十分間休憩ス

備考 室内氣温最高百度最低八十三度平均九十度

B、十二月中繰絲ノ試驗

五人ノ繰絲工女ニ就キ自十二月四日至十二月八日五日間毎日自午前五時至午後七時十四時間毎時間ノ繰絲成績ヲ調査ス

第三時間目第八時間目第十二時間目ニ食事時間トシテ各二十分間休憩ス

備考 室内氣温最高六十八度最低五十一度平均五十九度

一、試驗成績

A、八月中繰絲試驗成績

別紙試驗成績表ノ通り

左ノ試驗成績ニ依ルトキハ

工程 第一時八・五五%減(對平均繰絲量) 第十五時七・一六%減(同上) 第十六時二九・六八%減(同上) 第三時一〇・九四%増(同上) 第九時六・九〇%増(同上) 第十四時四・五六%増(同上) 第三時、第九時、第十四時ハ休憩時ヲ含ム時間ニシテ特ニ良好ノ成績ヲ示セルモ第一時、第十五時及第十六時ノ特ニ著シキ不良ノ成績ヲ除キテハ一日中時間ノ經過スルニ從ヒテ順次不良ノ成績ヲ示ス

織度 第五時、第七時、第十五時及第十六時ニ於テ稍不良ノ成績ヲ表セルモ他ハ僅少ノ差異ニシテ優劣ト附シ難シ

類節 大小類共ニ第八九時迄均等ノ成績ヲ表シ以後順次良好ノ成績ヲ示ス但シ小類ハ第十六時ニ至リ二〇・四〇%増(對平均數)ノ不良ノ成績ヲ示ス

品位 時間ノ經過ニ隨ヒテ順次不良ノ成績ヲ表シ終業時間ニ至リテハ特ニ不良ナリ

屑物 時間ノ經過スルニ隨ヒテ順次屑物歩合ヲ増加シ絲歩ヲ減スル不良ノ成績ヲ示ス

八月繰絲試驗成績表

時間	絲量		織度	類節	品位	屑物
	量	對平均				
自午前四時	17.3	(一) 1.6	1.96	0.04	3.8	3
至同午五時	17.3	(一) 1.6	1.96	0.04	3.8	3

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
八七	七六	六五	五四	四三	三二	二一	後	一一	一一	一九	九八	八七	七六	六五	六五	六五	六五	六五	六五	六五
時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時	時時
一三四三	一七四八	一九六九	一八九三	一八六三	一八七九	一八六三	二〇一三	一八八四	一九〇九	一九一五	二〇〇五	二〇四二	二〇八九	一九〇四	一九〇四	一九〇四	一九〇四	一九〇四	一九〇四	一九〇四
(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
五四〇	一三五	八六	一〇	二〇	〇四	二〇	一三〇	〇一	二六	三二	二二	一五九	二〇六	一〇一	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六
一一五二	二二〇八	二二八二	二二九六	二二九二	二二八〇	二二五六	二二六二	二二八二	二二五〇	二二六四	二二二四	二二七八	二二〇四	二〇二	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四
〇四八	〇〇八	〇二八	〇〇四	〇〇八	〇二〇	〇四四	〇三八	〇一八	〇五〇	〇三六	〇二四	〇二二	〇〇四	〇〇二	〇〇四	〇〇四	〇〇四	〇〇四	〇〇四	〇〇二
六七三	四九七	五五三	四三八	六三八	四二九	四九五	五四七	六〇四	五三七	六三八	五三八	六二二	六四〇	五二六	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	六四〇	五二六
(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)
一〇一	六〇二	〇〇四	九二	五九	一〇九	六四	一〇三	四〇二	〇〇二	五九	三〇三	五〇六	五八〇	四〇一	五〇三	五〇三	五〇三	五〇三	五〇三	四〇一
三三	一五	一七	一八	一八	一一	一九	一七	一五	一一	一一	一七	一三	七	七	七	七	七	七	七	七
(+)	(-)	(-)	(-)	(-)				(-)			(-)									
一七五	〇五	二五	三五	三五	三五	四五	二五	〇五	三五	二五	二五	一五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五
一〇七三				二七九四				二二五五				一一三九								
九〇一九				八四二五				九二七五				七二〇四								

合	計
平均	三〇二・一
	一八・三
	一八九二・八
	二一八・三
	五五九
	五五九
	二二二
	一四・五
	二六八・一
	三三七・三
	二二〇・八

右成績ニ基クトキハ工程ニ於テ第一時ノ始業時特ニ成績不良ナルハ其ノ他繰繰準備ニ時間ヲ徒費セシト夜間繰繰ノ影響セルナルヘク猶終業時ニ於テ最劣等ノ成績ヲ示セルハ精力ノ衰退夜間繰繰ノ弊害及繰繰等ノ事故相重リテ不良ノ成績ヲ示セルモノト推ス其ノ他休憩時ノ成績優良ナルハ休養ノ好果ナルヘク以上ノ諸點ヲ考察スルトキハ始業時及終業時ハ特ニ最低ノ能率ヲ示シ他ハ時間ノ経過ニ從ヒテ順次能率低降スルモノ、如シ

織度類節ニ至リテハ工程トハ相容レサル反對ノ成績ヲ示セルモ品位層物歩合等工程ト相似ノ成績ニシテ時間ノ経過ト共ニ順次不良ナルモノ、如シ

以上述ヘタル如クニシテ夜間繰繰ノ弊害及休憩ノ効果ヲ示セル特別ノ場合ヲ除キテハ時間ノ経過ニ從ヒテ身心疲勞ノ度ヲ増シ其ト共ニ順次職工ノ能率ヲ低降スルモノ、如ク此ノ成績ニ基キテ適當ナル休憩時ヲ推定スレハ左ノ如シ

一、第二時中第八時中第十五時中ニ各食事時間トシテ二十分間休憩スルコト

二、午後ノ夜業ハ午前ノ夜業ニ比シテ影響甚大ナルヲ以テ可成午後ニ於ケル夜業時間ヲ短縮スル

三、午前十一時ヨリ以後ハ多少ノ休憩時間ヲ設クルコト必要ニシテ夏期午後三四時酷暑ノ時ハ特ニ一回ノ休憩時ヲ設クルコト殊ニ十六時間就業スル本試験ノ如キハ第十二時ノ頃ニ於テ十五分乃至二十分ノ休憩時間ヲ設クルコトヲ必要トス

B、十二月中繰絲試験成績

別紙試験成績表ノ通り

左ノ成績ニ依ルトキハ

工程 第一時一四・九七%減(對平均繰絲量) 第十四時一三・七三%減(同上) 第三時一・二二%増(同上) 第八時八・七一%増(同上) 第十二時六・二〇%増(同上) 第三時第八時及第十二時ハ休憩時ヲ含ム時間ニシテ特ニ良好ノ成績ヲ示セルモ第一時及第十四時ノ特ニ不良時ヲ除ケハ他ハ時間ノ經過ニ從ヒテ順時不良ノ成績ヲ示ス

織度 第一時ヨリ第六時迄目的織度ニ對シ差異アルモ〇・三デニールニ止マリ第七時以後ハ其ノ差異大キク特ニ第九時第十時及第十一時ハ〇・五乃至〇・七デニールノ差アリテ特ニ不良ノ成績ヲ示ス

類節 小類ハ第一時ヨリ第七時及第十一時ヨリ第十四時迄ハ均等ニシテ成績良好ナル

モ第八時ヨリ第十一時迄ハ一・五〇%ヨリ二〇・七七%(對平均數)ノ多數ニシテ成績不良アリ

大抵ハ第三時ニ於テ二・三・七四%(對平均數) 多ク不良ノ成績ヲ示シ第八時ヨリ第十一時迄ハ一・八六%(増對平均數) —— 二・七・一二%(増對平均數) ニシテ小類ト相似タル不良ノ成績ヲ示ス

品位 第二時及第三時ニ不良ノ成績ヲ表シ第五時ヨリ第十五時迄ハ均等ノ成績ニシテ第十二時ヨリ不良ニ流レ第十四時ニ至リ最不良ヲ示ス

屑物 時間ノ經過ニ從ヒ順次不良ノ成績ヲ示シ屑物歩合ヲ増加シ繰絲量ヲ減スルモノ、如シ

十二月繰絲試験成績表

(試一)

時間	絲量		對平均	テニール	對目的差	類節		品位	屑物
	量	對平均				大	小		
自前六時	101.5	(-) 179	11.06	0.14	5.54	10.5	六		
自同七時	111.0	(-) 84	11.06	0.14	6.09	1.7	(-) 五五		
自同七時	111.0	(-) 84	11.06	0.14	6.09	1.7	(-) 五五		
自同八時	113.8	13.04	11.06	0.14	5.91	3.5	(-) 六五		

平均	至自									
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	七	六	五	四	三	二	一	後	一	一
均	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五	一一七五
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六	一一九六
〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四
六四九	六四九	六四九	六四九	六四九	六四九	六四九	六四九	六四九	六四九	六四九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五
一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三	一五二四三
一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九	一〇八二九
二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七	三〇・九七

右成績ニ基クトキハ工程ニ於テ始業時及第二時ニ特ニ不良ナルハ羨爾其ノ他ノ繰業準備ニ時間ヲ

徒費セシト夜間ノ繰業ノ弊害及寒氣ノ爲メ繰作ニ影響ヲ與フル等諸種ノ關係ヨリ來レルナルヘク猶終業前二時間ニ於テ成績不良ナルハ夜間繰業ノ弊害精力衰退及繰詰等ノ關係ニ依ルモノトス休憩時間ヲ含ム時特ニ優良ノ成績ヲ示セルハ休憩ノ効果ニ依ルナルヘシ以上ノ關係ヲ綜合スレハ始業終業時ヲ除キテ他ハ時間ノ經過ト共ニ順次能率ヲ減退スルモノトス織度、類節、品位、屑物、歩合等概シテ時間ノ經過ト共ニ順次不良ノ成績ヲ表シ第八九時頃ヨリ著シク能率ヲ低降シ終業時ニ於テ特ニ甚シク略工程ト共通ノ傾向ヲ示ス上述ノ如ク夜間繰業ノ弊害及休憩ノ効果ヲ示セル特別ノ場合ヲ除キテハ時間ノ經過ニ從ヒテ心身ノ疲勞ヲ増シ順次能率ヲ低降スルモノ、如シ此ノ成績ニ基キテ適當ナル休憩時ヲ推定スレハ左ノ如シ

一、第二時中第八時中第十二時中ニ各二十分宛ノ食事時間トシテ休憩時間ヲ設クルコト  
 二、冬期嚴寒ノ期ハ未明前ノ繰業ハ午後ニ於ケルヨリモ甚シク影響スルヲ以テ可成午前ニ於ケル夜業時間ヲ短縮スルコト

以上夏冬兩期ニ於ケル成績ヲ綜合スレハ

一、織度、類節、品位、屑物、歩合等第八九時ヨリ漸次能率低降ノ度ヲ増シ第十四時即チ終業時ニ近クニ從ヒテ甚タシク不良ノ成績ヲ示ス

一、工程ニ於テ第一時及休憩時間ヲ含ム場合ニ稍反對ノ成績ヲ示セルモ他ハ前項ト同様ノ傾向ヲ示ス

一、夏期ハ心身ノ疲勞甚ク午後三四時ニ至リテ著シク能率ヲ減シ終業時ニ於テハ其ノ價值極少ナリ

一、冬期ニ於テハ寒氣ノ影響甚ク能率ヲ減スルヲ以テ未明前ノ綠業ハ價值少シ

一、一日中休憩時及時間ハA、B、成績ニ於テ示セル通り

綜合成績綠絲試驗成績表

(試一)

時間	絲量		織度	類節	品等	位	層	物
	對平均	對平均						
至自 同 前 五 時	一三六八	(-) 一七〇	一一九	四六	二二	四五	八五	一〇七八
至自 同 同 六 時	一五四二	〇四	二八九	五二	三三	二五	〇五	一〇七八
至自 同 同 七 時	一七〇八	一七〇	二〇五	五六	三〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 八 時	一六〇八	七〇	二八七	五九	二九	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 九 時	一六二七	八九	二九二	五七	二六	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 一〇 時	一五八〇	四二	二七六	五八	二六	九	三五	一〇七八

平均	絲量		織度	類節	品等	位	層	物
	對平均	對平均						
至自 同 同 一 時	一五七四	三六	一五四	五二	二二	四五	八五	一〇七八
至自 同 同 二 時	一五四五	一七	一六九	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 三 時	一五四二	〇四	二六三	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 四 時	一五一九	一九	二六一	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 五 時	一五五四	一六	二二三	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 六 時	一六一八	八〇	二七四	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 七 時	一四五四	八四	二〇三	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 八 時	一二八六	三五	二五八	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 九 時	一二八六	三五	二五八	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
至自 同 同 一〇 時	一二八六	三五	二五八	五三	二〇	〇	〇	一〇七八
合計	一五三八	一	二八〇	五八	二六	九	三五	一〇七八

## 一、蠶繭解舒及絲量算定試験

### 一、試験ノ目的

生繭ノ當時ニ於テ解舒ノ良否及絲量ヲ迅速且ツ簡易ニシテ之ヲ機械的ニ算定スルコトヲ得ハ生繭賣買ハ正確且ツ安全ニシテ取引モ亦圓滿ナルコトヲ得ヘシ依ツテ左ノ方法ニ依リ試験ヲ行ヒ一算式ヲ求メントス

### 一、試験ノ方法

生繭ノ各荷口ヨリ一口ニ付二百二十匁ヲ取り左ノ通り試験ス

一、生繭十匁ヲ直ニ繰取り其ノ絲量及屑物ヲ檢ス

但落緒繭ハ繰絲セズ

二、生繭十匁ヲ繰リ其ノ絲量屑物ヲ檢ス

三、乾繭(生十匁ノ量)ヲ一ノ方法ニ依リテ試験ス

四、乾繭(生十匁ノ量)ヲ二ノ方法ニ依リテ試験ス

五、乾繭(生百八十匁ノ量)ヲ普通繰絲ニ依リ絲量時間及屑物ヲ檢ス

以上ノ五試験ヲ基礎トシテ比較調査シ五者間ニ於ケル係數ヲ發見シ一ノ成績ヲ以テ五ノ成績ヲ推算スルノ公式ヲ求ム



此ノ試験ハ春蠶繭ニ五十口秋蠶繭ニ五十口合計百口ニ就キ行ヘリ  
一、試験成績

別紙成績表ノ通り

試験(五)ハ表ノ比較ヲ便ナラシメンガ爲生繭十夕ノ繰絲成績ニ換算ス

綜合繰絲試験成績表 (試二)

重量	粒數	純繰絲時間	生絲重量	屑				合計重量		
				緒絲量	蛹視量	揚數	繭重		殘數	繭重
生 10.00	25.53	分	0.8803	0.2482	0.0453	10.60	0.3111	0.75	0.0134	0.5180
生 10.00	25.24	分	1.0709	0.1738	0.0794	1.24	0.0380	0.92	0.0155	0.3067
乾生 10.00	25.56	分	0.9313	0.1171	0.0401	1.33	0.1005	0.56	0.0130	0.4808
乾生 10.00	25.52	分	1.1176	0.1627	0.0703	0.86	0.0175	0.94	0.0174	0.2789
乾生 10.00	25.34	分	1.1141	0.1591	0.0187	0.84	0.0137	0.39	0.0111	0.3110

秋繭繰絲試験成績表 (試二)

重量	粒數	純繰絲時間	生絲重量	屑				合計重量		
				緒絲量	蛹視量	揚數	繭重		殘數	繭重
生 10.00	26.82	分	0.7846	0.2188	0.0458	11.06	0.3556	1.20	0.0114	0.5016
生 10.00	26.34	分	0.9585	0.1524	0.0098	1.18	0.0310	1.21	0.0148	0.2910
乾生 10.00	26.70	分	0.8576	0.0988	0.0424	2.98	0.3278	0.74	0.0170	0.4758
乾生 10.00	26.82	分	1.0316	0.1444	0.0758	1.31	0.0318	1.60	0.0176	0.2776
乾生 10.00	26.24	分	1.0120	0.1322	0.1115	0.21	0.0122	0.31	0.0143	0.3363

春繭繰絲試験成績表 (試一)

重量	粒數	純繰絲時間	生絲重量	屑				合計重量		
				緒絲量	蛹視量	揚數	繭重		殘數	繭重
生 10.00	24.14	分	0.9760	0.1776	0.0448	9.14	0.2666	0.30	0.0054	0.4944
生 10.00	24.14	分	1.1560	0.1952	0.0660	1.30	0.0450	0.71	0.0162	0.3324
乾生 10.00	24.42	分	1.0050	0.1556	0.0378	9.52	0.2834	0.38	0.0090	0.4858

項 目	種 別	絲		量		綜	合				
		春	秋	春	秋						
(四) 乾生	10.00 三.四三	二四.二三	—	一.一〇三六	〇.一八五〇	〇.〇六四八	〇.六〇	〇.〇三三三	〇.二八	〇.〇〇七二	〇.一八〇一
(五) 乾生	10.00 三.五八	二四.〇三	10.二二	一.一〇二二	〇.一八四四	〇.一〇六〇	〇.二五	〇.〇一九八	〇.四八	〇.〇一三三	〇.三三三
(一) 對	(二) ノ 比			一〇.八四四三				〇.七九五九			〇.八三三〇
(三) 對	(四) ノ 比			〇.八三五〇				〇.八三三三			〇.八三三三
(一) 對	(三) ノ 比			〇.九七一				〇.九二四九			〇.九四五二
(二) 對	(四) ノ 比			〇.九六〇五				〇.九五五六			〇.九五九一

右成績ニ依ルトキハ

一、試験ノ方法ヲ同セサルモノニ於テハ生鹵試験 (一)(二) ハ乾鹵試験 (三)(四) ニ比シテ絲量少シ  
 一、(四) 試験ニ於ケル絲量普通線絲 (五) ノ絲量ニ最モ近似セル成績ヲ示ス  
 但 (四) 試験成績ヲ以テスルトキハ稍絲量ヲ過大視スル傾向アリ  
 一、(二) 對 (四) ノ比ト (一) 對 (二) ノ比及 (一) 對 (三) ノ比ト (三) 對 (四) ノ比相近似セル成績ヲ示ス  
 右成績ニ基クトキハ從來絲量ノ測定ヲ行ヒシ (四) ノ方法ニ依ルトキハ最モ正確ナル共上述ノ如ク各

試験ノ成績比春秋共ニ均等ノ成績ヲ示セルヲ見レハ絲量ノ測定ハ必ス (四) ノ方法ニノミ頼ラサルモ  
 簡便ナル (一)(二) ノ生鹵ノ試験ニ依リテ算定スルモ支障ナキモノ、如シ  
 今次ニ絲量算定ニ用ユル絲量及算式ヲ示セハ左ノ如シ  
 試験 (五) ニ於ケル絲量ト (一)(三)(四) 試験ニ於ケル絲量ノ比ヲ求メテ係數トス  
 但此ノ係數ハ只一回ノ試験ヲ以テ決定スルコトハ稍困難ナルモ之ヲ示セハ左ノ如シ

項 目	種 別	春	秋	綜	合
(五) 對	(一) 比	1.130八	1.13020		1.126五六
(五) 對	(二) 比	1.0321	1.0212		1.0266
(五) 對	(三) 比	1.1253	1.1272		1.126四
(五) 對	(四) 比	0.9980	0.9956		0.996九

一、(一) 試験ニ依リ求ムル算式

$$X = \frac{X' \times A \times 1.266}{A'}$$

一、(二) 試験ニ依リ求ムル算式

$$X = \frac{X' \times A \times 1.040}{A'}$$

X.....求メントナル絲量

X'.....絲量ヲ求メントナル原料重量

A.....試験セシ絲量

A'.....試験ニ供セシ原料重量

右算式何レニ依ルモ支障ナキモ(一)試験ハ蠶繭解舒ノ良否及養繭技術ノ適否ニ至大ノ關係ヲ有シ本試験調査ニ於テモ絲量ニ多少ノ開差比較的大ナルモノアリ故ニ分厘ヲ爭フ絲量ノ算定ニ(一)式ノ使用ハ稍不安定ノモノトスサレハ(二)ノ式ニ依ルコト最モ適當トス

解舒ノ良否ハ(一)ノ方法ニ於テ落緒繭數ニ依ルコト最モ正確ナルヘク右試験成績ニ依ル時ハ試験繭ノ粒數ニ對シテ落緒繭ノ歩合約三・七七ナリ之ヲ増減スルニ從ヒテ良否ヲ略推定シ得ヘシト雖モ只一回ノ試験ヲ以テ標準トスルコト能ハス

養繭前含濕處理試驗

一、試験ノ目的

養繭ヲ行フ前ニ於テ繭ニ濕氣ヲ含マシムルコトハ養繭ヲ迅速ニシ且ツ圓滑ナラシメ率テ製絲經濟上得ル處多シト云フ故ニ其ノ含濕ノ適度及ヒ製絲經濟上ニ及ボス影響ヲ知ラントス

一、試験ノ方法

内部ヲ亞鉛板張リニシタル密閉室ヲ作り室ノ底ニハ絶エス水ヲ流通シ室内ヲ飽和状態ニ保タシムル装置ヲ爲シ繭ヲ容器ニ入レ棚ニ挿入シ含濕セシム標準區及各區共三十六本宛ヲ繰絲シ其成

績ヲ比較セリ

備考 室内温度四十五度内外

標準區ハ含濕處理ヲ施サ、ルモノ

第一區ヨリ第五區迄入室時間ニ依リ區分ス

入室時間ト含濕量ノ關係ヲ示セハ左ノ如シ

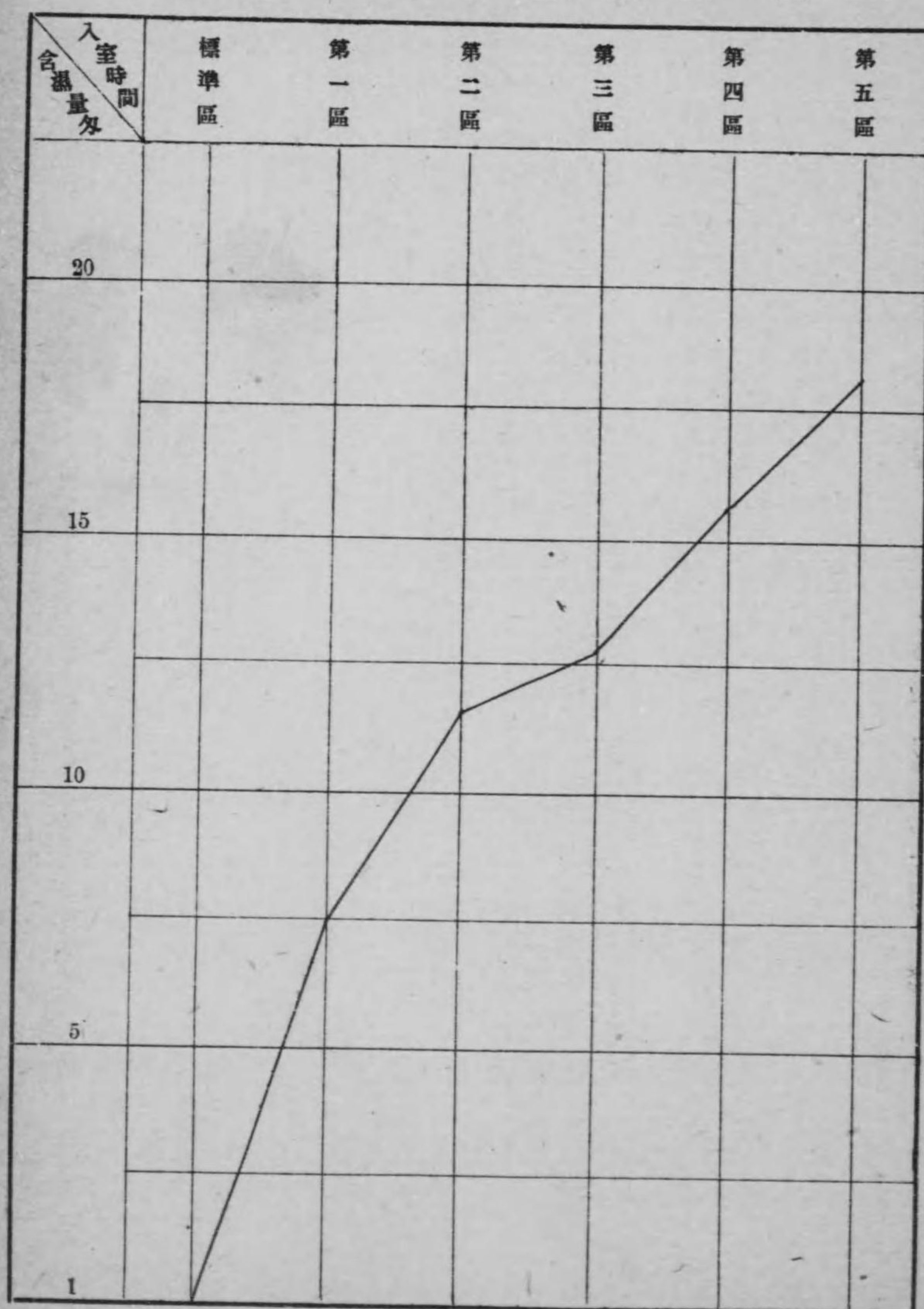
項 目	種 別	入室時間	繭重量	增加重量	增加率
第 一 區	第 一 區	11:01 <sup>時</sup>	1101.3 <sup>g</sup>	7.3 <sup>g</sup>	3.74 <sup>%</sup>
第 二 區	第 二 區	11:01	1106.3	11.3	5.79
第 三 區	第 三 區	11:03	1107.6	12.6	6.46
第 四 區	第 四 區	11:06	1107	15.7	8.05
第 五 區	第 五 區	11:11	1135	18.5	9.49

備考 室内温度ハ平均四十五度ニシテ略飽和状態ナリ

一、試験成績

別紙試験成績表ノ通り

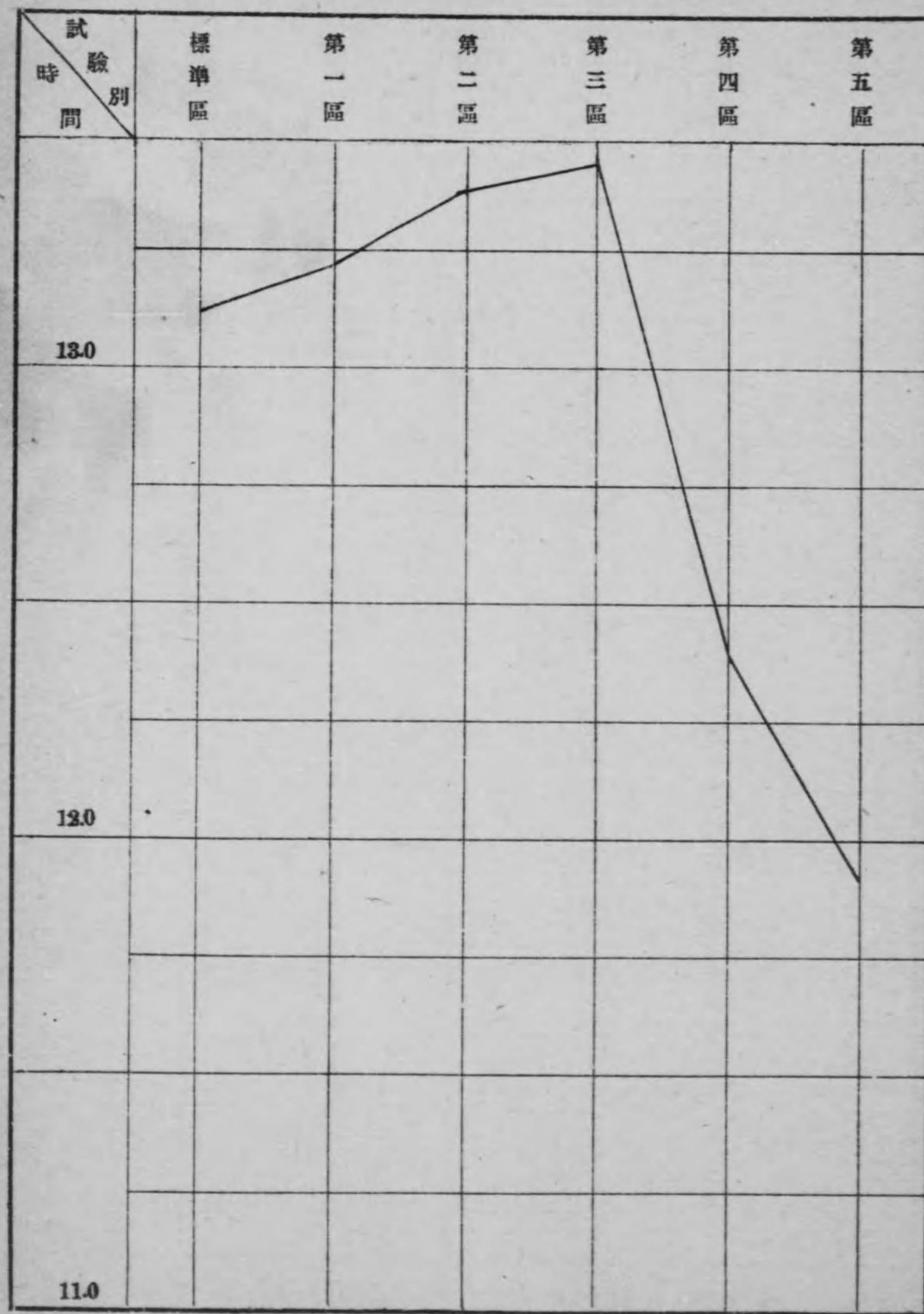
含濕處理試驗入室時ト含濕量増加ノ圖



繰絲試驗成績表

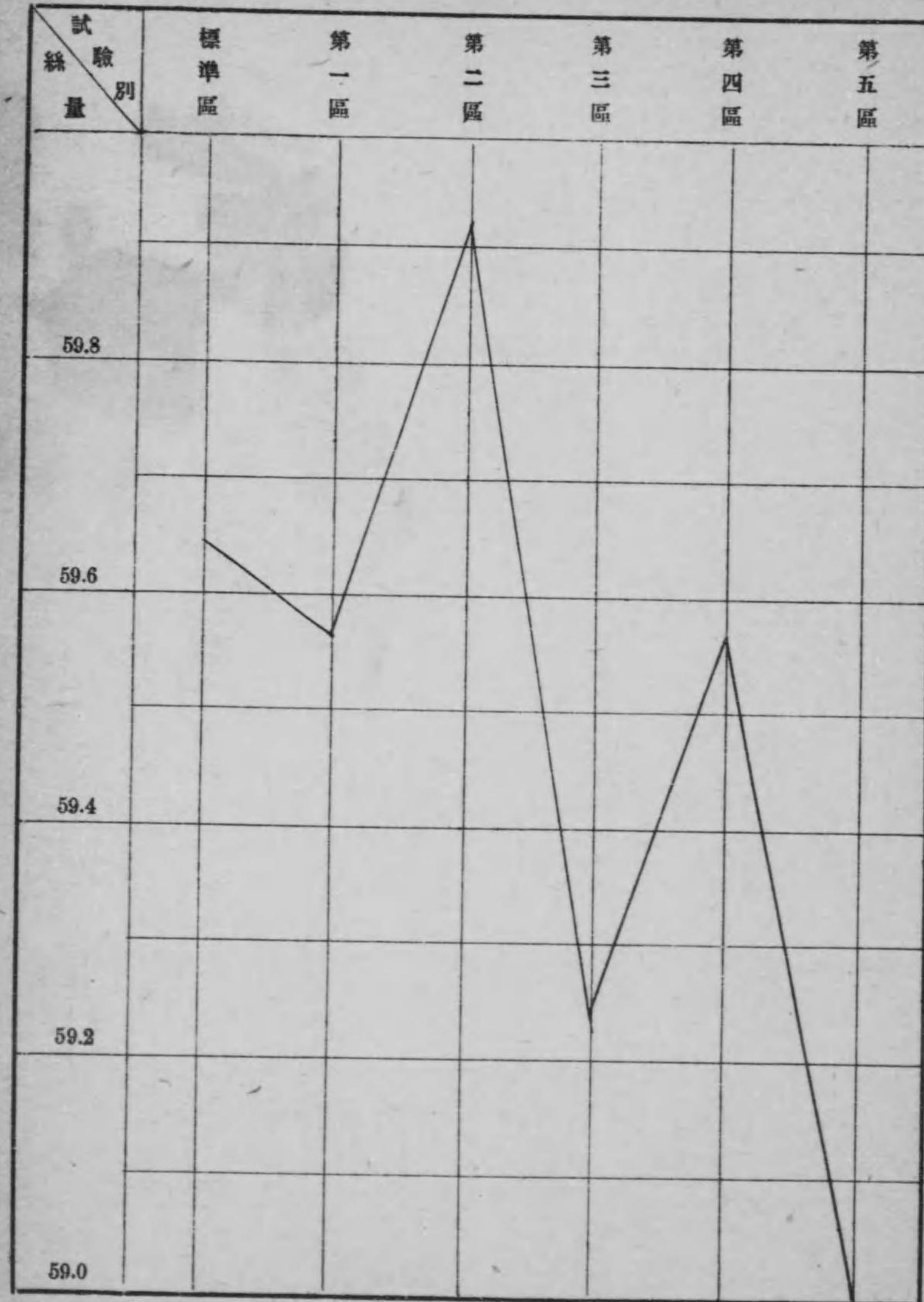
種別	標區	繭		純繰絲時間	生絲重量	屑		繭殼重量	繭殘繭重量	物合計重量	色澤等級	織		平均度	類		合計節
		回数	時間			繭量	繭殼量					最太	最細		大類	小類	
標準區	第一區	一七〇	四七九	一三・一五	五九・六五	二二・〇六	七・九三	一一・一一	二二・〇〇	二二・〇〇	二・〇	二二・九六	二〇・四二	二二・六五	一五	二〇四	二二九
第一區	第一區	一八三	四二五	一三・二二	五九・五七	二二・三二	七・八八	〇・九一	二二・一一	二二・一一	一四・六	二二・五〇	二〇・四二	二二・九二	一〇	一八五	一九五
第二區	第二區	一八五	四二九	一三・四〇	五九・九三	二二・九一	七・八九	一・二七	二二・〇七	二二・〇七	一七・六	二二・三五	二〇・六	二二・〇〇	六	三四八	三五四
第三區	第三區	一七七	四一〇	一三・四五	五九・二四	二二・五八	八・〇二	一・〇六	二二・三三	二二・三三	一九・三	二二・〇八	二〇・二六	二二・二八	六	三〇六	三二二
第四區	第四區	一六五	三・五六	一二・三八	五九・五七	二二・一八	八・二〇	一・六三	二二・〇二	二二・〇二	一八・七	二二・八三	二〇・八三	二二・二五	九	二六〇	二六九
第五區	第五區	一六五	三・三〇	一・九二	五九・〇〇	二二・三三	八・〇五	一・三五	二二・六三	二二・六三	一七・六	二二・一六	二〇・四二	二二・八〇	一一	二九六	三〇七

含濕處理試験含水量卜繰絲時間變化ノ圖



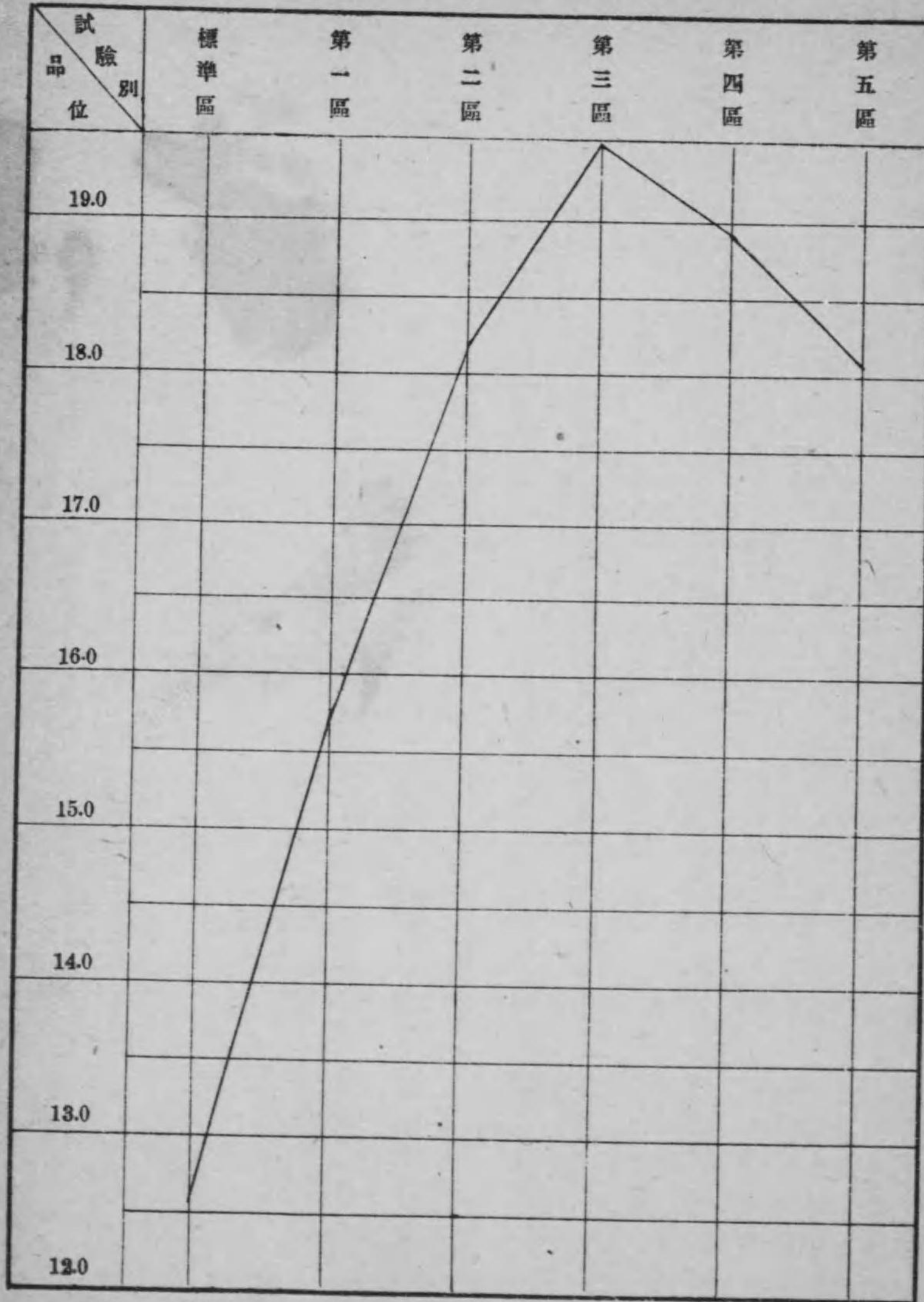
備考 繰絲時間ハ乾滿五百八十五匁ヲ繰絲セル時間ナリ

含水處理試験含水量ト絲量變化ノ圖



備考 絲量ハ乾繭五百八十五々ヲ繰絲セル絲量ナリ

含濕處理試験ト品位變化ノ圖



備考 品位ハ罰點數ナルヲ以テ點數ノ少ナキモノ程良好ナリ



右成績ニ基キ之ヲ標準區ト比較對照スルトキハ

工程

煮繭時間五區三二・二三%進捗シ四區之ニ次キ以下三區一區二區ノ順序ヲ示シ  
標準區最モ長時間ヲ要ス繰絲時間五區九・三五%進捗シ四區之ニ次キ標準區一區二區三  
區ノ順序ヲ示ス

絲步

二區〇・四七%多ク標準區之ニ次キ一區四區三區ノ順序ニシテ五區最モ少シ

屑物

二區最モ少ク標準區之ニ次キ一區三區五區ノ順序ニシテ四區最モ多シ

色澤

標準區最良ニシテ一區之ニ次キ二區五區四區ノ順序ニシテ三區最モ惡シ

類節

大類ハ二區三區六〇%少ク四區一區五區ノ順序ニシテ標準區最モ多シ

小類ハ一區一%少ク標準區之ニ次キ四區五區三區二區ノ順序ナリ

右ノ成績ヲ總括スル時ハ煮繭前ニ於テ含濕處理ヲ施スハ工程ヲ進捗シテ製絲經濟上大ノ利益アルモ幾分ノ絲量ヲ減耗シ且ツ生絲ノ品位ヲ劣惡スルコトアルハ考慮ヲ要スル點ニシテ猶研究ノ餘地アルモノトス

大正七年度製絲經濟試驗成績

# 大正七年度製絲經濟試驗成績

## 蠶繭解舒及絲量算定試驗

### 一、試驗ノ目的

生繭ノ當時ニ於テ解舒ノ良否及絲量ヲ迅速且ツ簡易ニシテ之ヲ機械的ニ算定スルコトヲ得ハ生繭賣買ハ正確且ツ安全ニシテ取引モ亦圓滿トナルコトヲ得ヘシ依ツテ左記ノ方法ヲ以テ試驗ヲ行ヒ一算式ヲ求メントス

### 一、試驗ノ方法

生繭ノ各荷口ヨリ一口ニ付二百三十匁ヲ採リ左ノ通り試驗ス

第一區生繭十匁ヲ直ニ繰絲シ其ノ絲量及ヒ屑物ヲ檢ス

但シ落緒繭ハ繰絲セス

第二區生繭十匁ヲ繰絲シ其ノ絲量及ヒ屑物ヲ檢ス

第三區乾繭（生繭十匁ノ量）ヲ第一區ノ方法ニ依リテ試驗ス

第四區乾繭（生繭十匁ノ量）ヲ第二區ノ方法ニ依リテ試驗ス

第五區乾繭(生繭百八十匁ノ量)ヲ普通繰絲ニ依リ生絲量及屑物量ヲ檢ス  
 第六區生繭十匁ノ繭層量ヲ計リ繭層歩合ヲ檢ス  
 以上ノ六試驗ヲ基礎トシテ比較調査シ六者間ニ於ケル係數ヲ發見シ一ノ成績ヲ以テ五ノ成績ヲ推  
 算スル公式ヲ求ム  
 此ノ成績ハ春夏秋蠶繭ヲ通シテ百口ニ付テ行ヘリ

秋蠶繭繰絲試驗成績表

重量	粒數	繭層量		生絲重量	屑		繭	殘	繭物	合計重量
		對生絲量歩合	量歩合		繭視量	揚個數				
(一) 生繭量 10 <sup>匁</sup>	2715	0.56	0.71	0.7011	0.0910	0.0109	14.2	1	0.519	0.6409
(二) 同	2742	0.74	1.007	1.007	0.1760	0.1071	—	24	0.036	0.3192
(三) 同	2709	0.579	0.788	0.788	0.1018	0.0103	14.2	—	0.370	0.4911
(四) 同	2745	0.744	1.030	1.030	0.1697	0.0655	—	20	0.011	0.2562
(五) 同	2695	0.754	1.015	1.015	0.1811	0.1054	0.64	—	0.028	0.3422

備考 生繭十匁ノ繭層量 一匁2660

綜合繰絲試驗成績表

重量	粒數	繭層量		生絲重量	屑		繭	殘	繭物	合計重量
		對生絲量歩合	量歩合		繭視量	揚個數				
(一) 生繭量 10 <sup>匁</sup>	2432	0.528	0.734	0.734	0.116	0.0319	11.8	—	0.4493	0.5938
(二) 同	2456	0.726	1.0005	1.0005	0.1678	0.0879	—	23	0.0471	0.3208
(三) 同	2455	0.666	0.815	0.815	0.1224	0.0254	11.9	—	0.3425	0.4902
(四) 同	2476	0.7635	1.0110	1.0110	0.1739	0.0638	—	19	0.0251	0.2628
(五) 同	2318	0.7257	1.0190	1.0190	0.1802	0.0950	0.52	—	0.0246	0.3243

備考 生繭十匁ノ繭層量 一匁404

春蠶繭繰絲試驗成績表

重量	粒數	繭層量		生絲重量	屑		繭	殘	繭物	合計重量
		對生絲量歩合	量歩合		繭視量	揚個數				
(一) 生繭量 10 <sup>匁</sup>	2209	0.519	0.766	0.766	0.1332	0.0349	9.3	—	0.3796	0.5467
(二) 同	2270	0.666	0.993	0.993	0.1596	0.0685	—	22	—	0.2862

(三) 同	10	三・〇〇	〇・六三六	〇・八一五	〇・一四三〇	〇・〇四〇四	九六	〇・三二四七	—	—	〇・四八八一
(四) 同	10	三・〇六	〇・七八二	一・〇三三	〇・一七八一	〇・〇六三三	—	—	一・七	〇・〇二九一	〇・二六九三
(五) 同	10	一・九四〇	〇・七〇〇	一・〇一三	〇・一七九三	〇・〇八四六	〇・四二	〇・〇二二五	一・〇	〇・〇二〇九	〇・三六三三

備考 生繭十匁ノ繭層量一・四四八

一、試験ノ成績ハ別紙成績表ノ如シ

但シ試験第五區ハ生繭量百八十匁ヲ繰繰セルモノナルモ他試験ト比較ヲ便ナラシメンカ爲メ  
生繭十匁ノ繰繰成績ニ換算セリ

一、生繭十匁ノ繭層量ハ春繭一・四四八匁秋繭一・三六〇匁平均一・四〇四匁ニシテ各試験ニ於ケル生繭量トノ歩合ハ次ノ如シ

項目種別	春	秋	繭	綜	合
繭層量對第一區	〇・五二九	〇・五二九	〇・五二九	〇・五二九	〇・五二九
同 對第二區	〇・六八六	〇・七四一	〇・七四一	〇・七四一	〇・七二六
同 對第三區	〇・六三三	〇・五九九	〇・五九九	〇・五九九	〇・六〇六

同 對第四區	〇・七八二	〇・七四四	〇・七四四	〇・七四四	〇・七三三
同 對第五區	〇・九〇〇	〇・七五四	〇・七五四	〇・七五四	〇・七五七

右試験表ニ依ル時ハ試験第一區及第三區ハ春秋試験ノ比略相似タルヲ以テ絲量ヲ推定スルニ難カラスト雖繭解舒ノ良否ト至大ノ關係アリテ本試験ニ於テモ絲量ノ隔差大ナルヲ以テ之レニ依リテ絲量ヲ推定スルハ稍困難ノ事トス試験第二區第四區及第五區ニ基ク時ハ絲量ハ繭層量ノ約七〇%乃至七五%ニシテ原料繭解舒ノ良否ヲ鑑定シ此レヲ斟酌シテ略絲量ヲ推定スルコトヲ得ヘシ

二、生繭試験(試験第一區第二區)ト乾燥試験(試験第三區第四區)及ヒ普通繰繰法ニ依ルモノ(試験第二區第四區)ト特別繰繰法ニ依ルモノ(試験第一區第三區)トノ絲量ノ比較ヲ示セハ左ノ如シ

項目種別	春	秋	繭	綜	合
第一區對第二區	〇・九二四	〇・六九七	〇・六九七	〇・六九七	〇・七三六
第三區對第四區	〇・七八七	〇・七八七	〇・七八七	〇・七八七	〇・七八四二
第一區對第三區	〇・九三九	〇・八九〇	〇・八九〇	〇・八九〇	〇・九〇〇六
第二區對第四區	〇・九六三	〇・九九五	〇・九九五	〇・九九五	〇・九七九〇

右成績表ニ依ル時ハ

一、試験ノ方法同一ナル時ハ生繭試験（試験第一區第二區）ハ乾燥試験（試験第三區第四區）ニ比シテ絲量少ナシ

一、試験第五區ノ絲量ニ相近キハ試験第四區即チ乾燥普通繅絲ナルモ此ノ絲量ヲ以テ算定スル時ハ絲量ヲ稍過大視スル傾アリ

右成績ハ大正六年度試験成績ト同様ノ成績ニシテ第一區對第二區ノ比ト第三區對第四區ノ比及ヒ第一區對第三區ノ比ト第二區對第四區ノ比略相似タリ故ニ從來行フ處ノ第四區試験ニ依ラス其ノ何レノ試験區ニ基キテ絲量ヲ算定スルモ大差ナキモノトス  
今絲量算定ニ用フル係數ヲ示セハ左ノ如シ

係數ハ試験第五區ノ絲量ト第一區第二區第三區第四區ニ於ケル絲量ノ比ヲ以テス

大正七年度試験

項目種別	春	秋	綜	合
第五區對等第一區	1.3325	1.4601		1.3883
第五區對第二區	1.0101	1.0719		1.0185

大正六年度試験

項目種別	春	秋	綜	合
第五區對第三區	1.2429	1.3008		1.2714
第五區對第四區	0.9826	0.9952		0.9844
第五區對第一區	1.3308	1.3090		1.2656
第五區對第二區	1.0391	1.0418		1.0404
第五區對第三區	1.1953	1.1976		1.1964
第五區對第四區	0.9980	0.9956		0.9968

大正六年度七年度ヲ平均セルモノヲ示セハ左ノ如シ

項目種別	春	秋	綜	合
第五區對第一區	1.2767	1.3846		1.3270
第五區對第二區	1.0296	1.0299		1.0295

第五區對第三區  
第五區對第四區

一一二九二  
〇九九九

一一四九二  
〇九九四

一一三三九  
〇九九二七

一〇六

右表ニ依レハ大正六、七、兩年度ニ於ケル係數ハ略相近キ數字ヲ表セルヲ以テ兩年度ノ平均數ヲ求  
メテ絲量算定ノ係數トス

今右係數ニ基キテ算定ノ公式ヲ示セハ左ノ如シ

X ... 求メソトスル絲量

X' ... 絲量ヲ求メソトスル原料重量

A ... 試驗セソ絲量

A' ... 試驗ニ供スシ原料重量

試驗第一區ニ依ル時ハ

$$X = \frac{X' \times A \times 1.327}{A'} \dots\dots\dots 1$$

試驗第二區ニ依ル時ハ

$$X = \frac{X' \times A \times 1.0295}{A'} \dots\dots\dots 2$$

右算式ヲ以テ少量生繭繰絲試驗ニ依リ簡易ニ絲量ヲ算定スルコトヲ得然レ共試驗第一區ニ於ケル  
絲量ハ原料繭解舒ノ良否及ヒ煮繭技術ノ適否ニ關係甚大ニシテ各試驗ニ於ケル絲量ノ隔差大ナル  
モノアルヲ以テ絲量算定ニ第一式ニ依ルトキハ稍不安ナルモノトス  
蠶繭ノ解舒ハ試驗第一區ニ於ケル落緒繭數及絲量歩合ニ依リテ推定ヲ下ス事ヲ得ヘシ

一〇七

14  
21  
176

大正八年三月卅日印刷  
大正八年四月八日發行

### 岐阜縣製絲同業組合

岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶  
西濃印刷株式會社代表者

印刷人 河田貞次郎

岐阜縣岐阜市七軒町十一番地

印刷所 西濃印刷株式會社  
岐阜支店



8-484

Vertical text or markings, possibly bleed-through or a stamp, located in the center of the page.

終